

## 【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年3月13日

【発行者名】 SBIアセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 梅本 賢一

【本店の所在の場所】 東京都港区六本木一丁目6番1号

【事務連絡者氏名】 蝶野 善一

【電話番号】 03-6229-0170

【届出の対象とした募集内国投資  
信託受益証券に係るファンドの  
名称】 SBIグローバル・ラップファンド（安定型）  
SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

【届出の対象とした募集内国投資  
信託受益証券の金額】 SBIグローバル・ラップファンド（安定型）  
上限5,000億円  
SBIグローバル・ラップファンド（積極型）  
上限5,000億円

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 第一部【証券情報】

### （１）【ファンドの名称】

SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

（以上を総称して「SBIグローバル・ラップファンド」、「My-ラップ」または「本ファンド」という場合があります。また、それぞれを「各ファンド」という場合があります。）

なお、各ファンドについて、以下の愛称を用いることがあります。

ファンド名称	愛称
SBIグローバル・ラップファンド（安定型）	My-ラップ（安定型）
SBIグローバル・ラップファンド（積極型）	My-ラップ（積極型）

### （２）【内国投資信託受益証券の形態等】

契約型の追加型証券投資信託の受益権です。

本ファンドの当初元本は1口当たり1円です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付もありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社であるSBIアセットマネジメント株式会社（以下「委託者」または「委託会社」という場合があります。）は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

### （３）【発行（売出）価額の総額】

SBIグローバル・ラップファンド（安定型）	5,000億円を上限とします。
SBIグローバル・ラップファンド（積極型）	5,000億円を上限とします。

### （４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

#### （ ） 基準価額の算出方法

「基準価額」とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令及び一般社団法人投資信託協会<sup>\*</sup>規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。ただし、便宜上1万口当たりで表示されます。

\* 2026年4月1日付けで、一般社団法人 資産運用業協会へ名称変更される予定です。（以下同じ。）

#### （ ） 基準価額の算出頻度・照会方法等

基準価額は毎営業日算出されます。最新の基準価額（1万口当たり）は販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊にも掲載されています。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社

電話番号 03 - 6229 - 0097 (受付時間: 毎営業日の午前9時~午後5時)

ホームページ <https://www.sbi-am.co.jp/>

(5) 【申込手数料】

通常のお申込み

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.3% (税抜3.0%) を上限として販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額とします。

お申込手数料は販売会社により異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。なお、前記(4)に記載の照会先においてもご確認いただけます。

\* 申込手数料には、消費税及び地方消費税(以下「消費税等」といいます。)が課されます。

(注) 申込手数料とは、購入時の商品説明、情報提供及び事務手続き等にかかる対価のことをいいます。

確定拠出年金制度に基づくお申込み

申込手数料はかかりません。

取得申込みに際して、本ファンドにかかる「自動けいぞく投資契約」(取扱販売会社によっては名称が異なる場合もございます。)を取扱販売会社との間で結んでいただきます。また、確定拠出年金、または変額年金を通じて取得申込みを行う場合は、当該定めにしたがうものとします。

(6) 【申込単位】

お申込単位は、各販売会社が定めるものとします。(当初1口=1円)

詳しくは販売会社にお問い合わせください。なお、前記(4)に記載の照会先においてもご確認いただけます。

(7) 【申込期間】

2026年3月14日(土曜日)から2026年9月15日(火曜日)まで

なお、申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

委託会社の指定する販売会社においてお申込みの取扱いを行います。

販売会社は、前記(4)に記載の照会先においてもご確認いただけます。

(9) 【払込期日】

取得申込者は、販売会社が定める日までにお申込金額を販売会社に支払うものとします。詳細については販売会社にお問い合わせください。

各取得申込受付日の発行価額の総額は、追加設定を行う日に販売会社より委託会社の口座を経由して受託会社のファンド口座に払込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

お申込代金について、取得申込者はお申込みの販売会社に支払うものとします。

販売会社については前記(4)に記載の照会先においてもご確認いただけます。

(11) 【振替機関に関する事項】

ファンドの受益権の振替機関は以下の通りです。

株式会社証券保管振替機構

## (12) 【その他】

### お申込みの方法等

(i) 受益権取得申込者は、販売会社との間で証券投資信託の取引に関する契約に基づいて、取引口座の開設を申込む旨のお申込書を提出します。

( ) 前記( )の定めは、本ファンドの当初の設定にかかる委託会社自らの受益権の取得の場合には適用しません。

### 日本以外の地域における発行

該当事項はありません。

### 申込の受付の中止、すでに受付けた取得申込の受付の取消し

委託会社は、取得申込者の取得申込総額が多額な場合、信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、または金融商品取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所及び金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。なお、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があります。取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場ないしは当該市場を開設するものを「証券取引所」という場合があります。）等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、販売会社は、受益権の取得申込みの受付を中止すること、及びすでに受付けた取得申込みを取消すことができます。

なお、取得申込みの受付が中止または取消しされた場合には、受益者は当該受付中止または取消し以前に行った当日の取得申込みを撤回できます。ただし、受益者がその取得申込みを撤回しない場合には、当該受益権の取得の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に取得申込みを受付けたものとして取扱うこととします。

### 振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法及び前記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

### (参考)

投資信託振替制度とはファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理するものです。ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿（「振替口座簿」といいます。）への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

この投資信託は、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドの基本的性格

ファンドの商品分類

ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類において、「追加型投信／内外／資産複合」に分類されます。ファンドの商品分類、属性区分の詳細につきましては、以下のようになります。

なお、ファンドが該当しない商品分類及び属性区分、その定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

#### 商品分類

SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

ファンドの商品分類は「追加型投信／内外／資産複合」です。

商品分類表（ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式 債券
追加型投信	海外	不動産投信
	内外	その他資産 ( )
		資産複合

商品分類の定義

該当分類	分類の定義
追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
内外	目論見書または投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
資産複合	目論見書または信託約款において、株式、債券、不動産投信、その他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

#### 属性区分

## ファンドの属性区分

投資対象資産	その他資産 (投資信託証券(資産複合(株式、債券、不動産投信、その他資産) 資産配分変更型))
決算頻度	年1回
投資対象地域	グローバル(日本含む)
投資形態	ファンド・オブ・ファンズ
為替ヘッジ	あり(適時ヘッジ)

## 属性区分表(ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。)

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式	年1回			
一般	年2回	グローバル		
大型株	年4回	(日本含む)		
中小型株	年6回	北米		
債券	(隔月)	欧州	ファミリー	あり
一般	年12回	アジア	ファンド	(適時ヘッジ)
公債	(毎月)	オセアニア		
社債	日々	中南米	ファンド・	
その他債券	その他	アフリカ	オブ・	なし
クレジット	( )	中近東	ファンズ	
属性		(中東)		
( )		エマージング		
不動産投信				
その他資産				
(投資信託証券(資産複合(株式、債券、不動産投信、その他資産))資産配分変更型))				
資産複合				

属性区分の投資対象資産に記載している「その他資産」は、投資信託証券(資産複合(株式、債券、不動産投信、その他資産)資産配分変更型)です。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

## 属性区分の定義

該当区分	区分の定義
その他資産 (投資信託証券(資産複合(株式、債券、不動産投信、その他資産))資産配分変更型))	目論見書または信託約款において、組入れ資産が主として投資信託証券であり、実質的に複数資産(株式、債券、不動産投信、その他資産)を投資対象とし、組入比率については機動的な変更を行う旨の記載があるものをいいます。本ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用されます。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産(その他資産(投資信託証券(資産複合(株式、債券、不動産投信、その他資産))資産配分変更型))と、収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産(資産複合)とが異なります。

年1回	目論見書または信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
グローバル (日本含む)	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。 なお、「世界の資産」の中に日本を含みます。
ファンド・オブ・ファンズ	目論見書または信託約款において、投資信託及び外国投資信託の受益証券ならびに投資法人及び外国投資法人の投資証券(投資法人債券を除く)への投資を目的とする投資信託(ファミリーファンドのベビーファンドに該当するものを除く)をいいます。
為替ヘッジあり (適時ヘッジ)	目論見書または信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるもののうち、適時ヘッジを行うものをいいます。

## ファンドの特色



## 1 SBIグローバル・ラップファンドは`安定型`<sup>※</sup>、と`積極型`<sup>※</sup>、の2つのファンドで構成されています。なお、次の愛称を用いることがあります。

ファンド名称	愛称
SBIグローバル・ラップファンド（安定型）	My-ラップ（安定型）
SBIグローバル・ラップファンド（積極型）	My-ラップ（積極型）

※安定型、積極型の各名称は、ファンド相互の相対的なリスク量を示すものであり、元本を保証するということの意味するものではありません。



## 2 上場投資信託証券（ETF）及び投資信託証券を主要投資対象とします。

- 投資対象とする上場投資信託証券（ETF）及び投資信託証券は、総称して「投資対象ファンド」という場合があります。
- 投資対象ファンドの選定及び投資比率については、各資産の期待リターンやリスク、各資産における相関係数等をもとに決定します。



## 3 世界各国のさまざまな資産への分散投資により、中長期的な収益の獲得を目指します。

- 投資対象ファンドへの投資を通じて、世界各国の株式、債券、貸付債権（バンクローン）、ヘッジファンド、コモディティ、不動産投資信託証券（リート）等、さまざまな資産への分散投資を行うことで収益の獲得を目指します。
- スマートベータ指数<sup>※</sup>に連動するETFや、国内及び海外の中小型株式へ投資を行うことにより、追加的な収益の獲得を追求します。

※スマートベータ指数とは、時価総額に応じて銘柄を組入れる従来型の株価指数ではなく、財務指標（売上高、営業キャッシュフロー、配当金など）や株価の変動率など銘柄の特定の要素に基づいて構成された指数のことをいいます。

- ・運用期間中に亘り上記のすべての資産に投資するとは限りません。
- ・投資対象ファンドは、定性、定量評価等により適宜見直す場合があります。したがって、当初組入れていた投資対象ファンドでも、運用期間中に投資対象から外したり、新たな投資対象ファンドを選定し投資対象とする場合があります。



## 4 投資対象ファンドの選定及び投資比率の決定にあたっては、ウエルスアドバイザー株式会社からの助言により運用されます。

ウエルスアドバイザー株式会社

投資信託を中心に、様々な金融商品に関する調査分析情報を提供する運用調査機関です。

グローバルな株式銘柄の分析、ファンド選定、資産配分に関する運用助言等を行っています。

契約資産残高約5,799億円（2025年12月末現在）

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 5

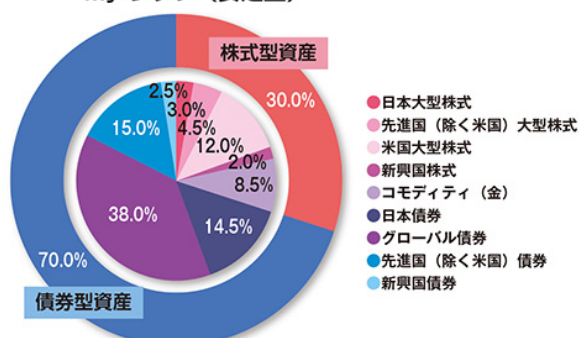
## 投資目的やリスク許容度等に応じた2つのファンドから選択いただけます。

## ■各ファンドの基本配分比率

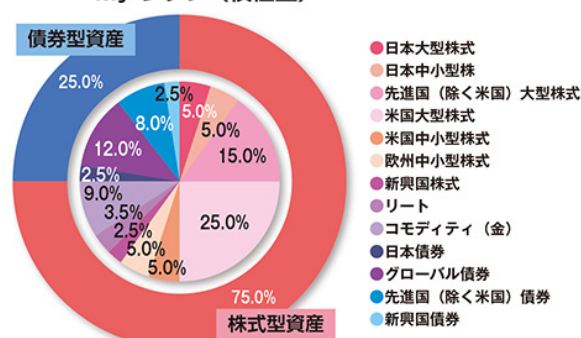
資産クラス・基本配分	My-ラップ（安定型）	My-ラップ（積極型）
債券型資産（債券、ヘッジファンド等）	70%	30%
株式型資産（株式、リート等）	30%	70%

## ■各資産クラスへの基本投資比率（2026年3月変更）

## My-ラップ（安定型）



## My-ラップ（積極型）



- ・本ファンドは、投資対象ファンドへの投資により世界各国のさまざまな資産へ投資します。
- ・実際の投資対象ファンドへの投資比率は、市況見通しの変化等により基本配分比率に対して±10%の範囲で変動させる場合があります。また、経済環境の変化等が見込まれた場合には、基本配分比率の見直しを行う場合があります。

投資対象ファンドは、後掲「追加的記載事項」「投資対象ファンドの概要」をご覧ください。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 分配方針

毎決算時（毎年12月15日。休業日の場合は翌営業日とします。）に原則として以下の方針により分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。

分配金の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制することとします。  
（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）

将来の分配金の支払い及びその金額について示唆、保証するものではありません。

## 追加的記載事項

本ファンドが投資対象としている投資対象ファンドの概要は次の通りです。

投資対象ファンドは、定性・定量評価等により見直す場合があります。したがって、当初組入れていた投資対象ファンドでも、運用期間中に投資対象から外したり、新たな投資対象ファンドを選定し投資対象とする場合があります。

なお、下記は2026年3月14日以降に投資する投資対象ファンドの内容です。2025年12月末時点で委託会社が取得可能な情報を基に記載しており、今後変更される場合があります。

### ●投資対象ファンドの概要

資産区分	投資対象	投資対象ファンド	ベンチマーク	運用の基本方針
株式型資産	日本 大型株式	iシェアーズ・コア TOPIX ETF	(東証株価指数(TOPIX)) 日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。1968年(昭和43年)1月4日の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。	日本の株式市場全体の動向を示す「東証株価指数(TOPIX)」への連動を目指して運用を行います。TOPIXに採用されている銘柄および採用が決定された銘柄の株式を投資対象とします。
	日本 中小型株式	One ETF 高配当日本株	S&P/JPX 配当貴族指数	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. S&amp;P/JPX 配当貴族指数(以下、「対象指数」という場合があります。)に連動する投資成果をめざして運用を行います。</li> <li>2. 信託財産の1口当たりの純資産額の変動率を対象指数の変動率に一致させることを目的として、対象指数に採用されている銘柄(採用予定の銘柄を含む。)の株式に対する投資として運用を行います。</li> <li>3. 信託財産中に占める個別銘柄の株数の比率は、対象指数における個別銘柄の構成比率から算出される株数の比率程度を維持することを原則とします。</li> </ol>
	先進国 (除く米国) 大型株式	State Street SPDR ポートフォリオ 先進国株式(除く米国) ETF	(S&P ディベロップド(除く米国)・ブロード・マーケット・インデックス) S&P ダウジョーンズ・インデックス社が算出する指数で米国を除く先進国株式市場全体の動きを表す株価指数です。	S&Pディベロップド(除く米国)・ブロード・マーケット・インデックスに連動する投資成果を目指すETF(上場投資信託)です。米国以外の先進国を所在国とする上場企業を投資ユニバースとします。
	米国 大型株式	シュワブ・ 米国大型株グロース・ ETF	(ダウジョーンズ・米国大型成長株・インデックス) 米国の大型成長株のパフォーマンスを測定する指数です。	米国の大型成長株のパフォーマンスを測定する「ダウジョーンズ・米国大型成長株・インデックス」に連動する投資成果を目指して運用を行います。
	米国 中小型 株式	バンガード・ ミッドキャップ・ グロースETF	(CRSP USミッドキャップ・グロース・インデックス) CRSP USミッドキャップ・インデックスにおける成長株のパフォーマンスを表す指数です。(CRSP USミッドキャップ・インデックスは、米国の中型株式の動向を示す株価指数で、米国の株式市場(ニューヨーク証券取引所、ナスダック、NYSE Arca)の時価総額下位2%~15%に属する銘柄で構成されています。)	米国の中型成長株のパフォーマンスを測定する「CRSP USミッドキャップ・グロース・インデックス」に連動する投資成果を目指して運用を行います。
	欧州 中小型 株式	フランクリン・FTSE ユーロゾーン ETF	(FTSE ユーロゾーン先進国・インデックス) 欧州先進国10カ国の大型株・中型株の動向を示す株価指数です。	欧州先進国10カ国の大型株・中型株のパフォーマンスを測定するFTSE ユーロゾーン先進国・インデックスに連動する投資成果を目指して運用を行います。

資産区分	投資対象	投資対象ファンド	ベンチマーク	運用の基本方針
株式型資産	新興国株式	State Street SPDR ポートフォリオ 新興国株式 ETF	(S&P エマージングBMI指数) S&P ダウジョーンズ・インデックス社が算出する指数で新興国株式市場全体の動きを表す株価指数です。	新興国株式市場全体の動きを表すS&P エマージングBMI指数に連動する投資成果を目指して運用を行います。
	コモディティ(金)	SPDR ゴールド・ミニシアーズ・トラスト	LBMA金価格	市場での現物の金地金の取引価格に連動する投資成果を目指して運用を行います。 金地金価格は、ロンドン市場における取引価格が国際的な指標です。
	リート	State Street 不動産セレクト・セクター SPDR ETF	不動産セレクト・セクター指数	S&P500指数における不動産セクターのパフォーマンスを計測する指標である不動産セレクト・セクター指数の値動きに、経費控除前ベースで概ね連動する投資成果を追求します。
債券型資産	日本債券	NEXT FUNDS 国内債券・ NOMURA-BPI 総合連動型上場投信	〈NOMURA-BPI総合〉 国内で発行された公募利付債券の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。	ベンチマークである「NOMURA-BPI総合」に連動する投資成果を目指して運用を行います。
	グローバル債券	ピムコ・バミューダ・インカムファンドA クラスX(JPY)	ベンチマークはありません	「ピムコ・バミューダ・インカムファンド(M)」受益証券を主要投資対象として、投資適格未満の銘柄も含めた世界の幅広い銘柄の中から、米ドル建ての債券等を中心に投資を行うことで、長期的な信託財産の成長を目指すとともに、利子収入の最大化を目指す運用を行います。
	先進国(除く米国)債券	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF(米ドルヘッジあり)	〈ブルームバーグ・グローバル総合(米ドル除く)浮動調整RIC基準インデックス(米ドルヘッジベース)〉 グローバルな投資適格固定利付債券市場のパフォーマンスを広範に測定します。米ドル建て以外の、政府債、政府機関債、社債、及び証券化された非米国の投資適格固定利付債券で構成されています。同一の発行体(外国政府を含む)への投資に上限(20%)を設けています。組入れ証券の該当通貨の米ドルに対する為替レートの変動を相殺するため、米ドルヘッジされています。	ブルームバーグ・グローバル総合(米ドル除く)浮動調整RIC基準インデックス(米ドルヘッジベース)のパフォーマンスへの連動を目指します。為替レートの不確実性への保護を追求する目的で、組入れ証券の該当通貨の米ドルに対するヘッジ戦略を採用していますが、あくまでも米ドルベースのヘッジ戦略であるため、日本円をベースとした投資家にとっては為替リスクを伴います。インデックス・サンプリング法を用いたパッシブ運用です。ファンドはフルインベストメントを維持します。米国以外の主要な債券市場全体への、幅広く分散したエクスポージャーを提供します。低経費によってトラッキングエラーを最小限に抑えます。
	新興国債券	バンガード・米ドル建て新興国政府債券ETF	〈ブルームバーグ米ドル建て新興市場政府債RIC基準インデックス〉 新興市場国政府、政府機関、及び国有企業が発行体であり残存期間が1年超の米ドル建て債券で構成される指数です。	ブルームバーグ米ドル建て新興市場政府債RIC基準インデックスに連動する投資成果を目指して運用を行います。

## ●投資対象ファンドの対象指数について

- 東証株価指数（TOPIX）（出所：東京証券取引所）  
東証株価指数（TOPIX）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、時価総額加重方式により算出される株価指数です。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- S&P/JPX 配当貴族指数  
S&P/JPX配当貴族指数とは、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス、株式会社日本取引所グループおよび株式会社JPX総研が公表する株価指数です。東証株価指数（TOPIX）の構成銘柄のうち10年以上毎年増配しているか、安定した配当を維持している40～50銘柄を対象とし、配当利回り加重平均を用いて2006年7月31日を基準値100として計算されています。
- S&P ディベロップド(除く米国)・ブロード・マーケット・インデックスは、S&P ダウジョーンズ・インデックス社が算出する指数で米国を除く先進国株式市場全体の動きを表す株価指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はS&P ダウジョーンズ・インデックス社に帰属します。
- ダウジョーンズ・米国大型成長株・インデックス  
出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社（S&P社）  
ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をS&P社は何ら保証するものではありません。またその著作権はS&P社に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。
- CRSP USミッドキャップ・グロース・インデックス  
米国の中型株式のうち成長株の動向を示す株価指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はシカゴ大学証券価格調査センター（Center for Research in Security Prices）に帰属します。
- FTSE ユーロゾーン先進国・インデックス  
同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はFTSE Russellに帰属します。
- LBMA金価格  
ロンドン市場における1トロイオンスあたりの金現物価格です。LBMAは、ロンドン貴金属市場協会（London Bullion Market Association)の略称です。
- S&P エマージングBMI指数  
出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社（S&P社）  
ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をS&P社は何ら保証するものではありません。またその著作権はS&P社に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。
- NOMURA-BPI総合  
NOMURA-BPI総合の知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI総合の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、NOMURA-BPI総合を用いて運用されるETFの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- ブルームバーグ・グローバル総合（米ドル除く）浮動調整RIC基準インデックス（米ドルヘッジベース）は、グローバルな投資適格固定利付債券市場の値動きを表す指数です。同指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はブルームバーグ社に帰属します。
- ブルームバーグ米ドル建て新興市場政府債RIC基準インデックスとは、新興市場国政府、政府機関、及び国有企業が発行体であり残存期間が1年超の米ドル建て債券で構成される指数です。同指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はブルームバーグ社に帰属します。

### 信託金の限度額

SBIグローバル・ラップファンド（安定型）	5,000億円を上限とします。
SBIグローバル・ラップファンド（積極型）	5,000億円を上限とします。

・委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

## （２）【ファンドの沿革】

2014年12月11日

SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

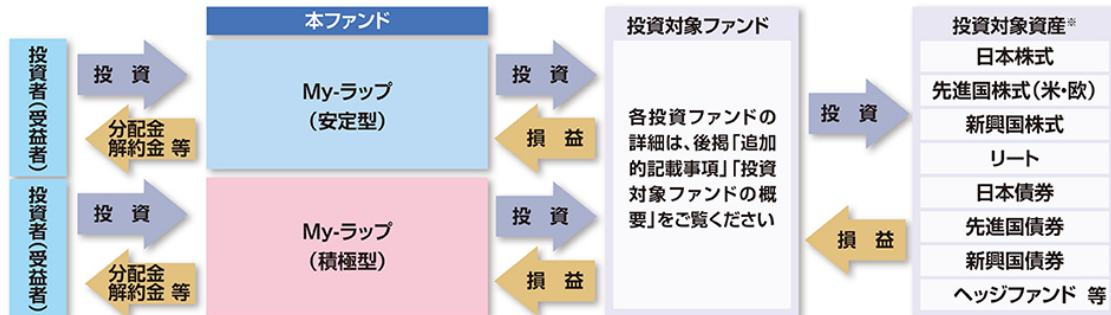
各ファンドについて信託契約締結、設定・運用開始

### （3）【ファンドの仕組み】

#### ファンドの仕組み

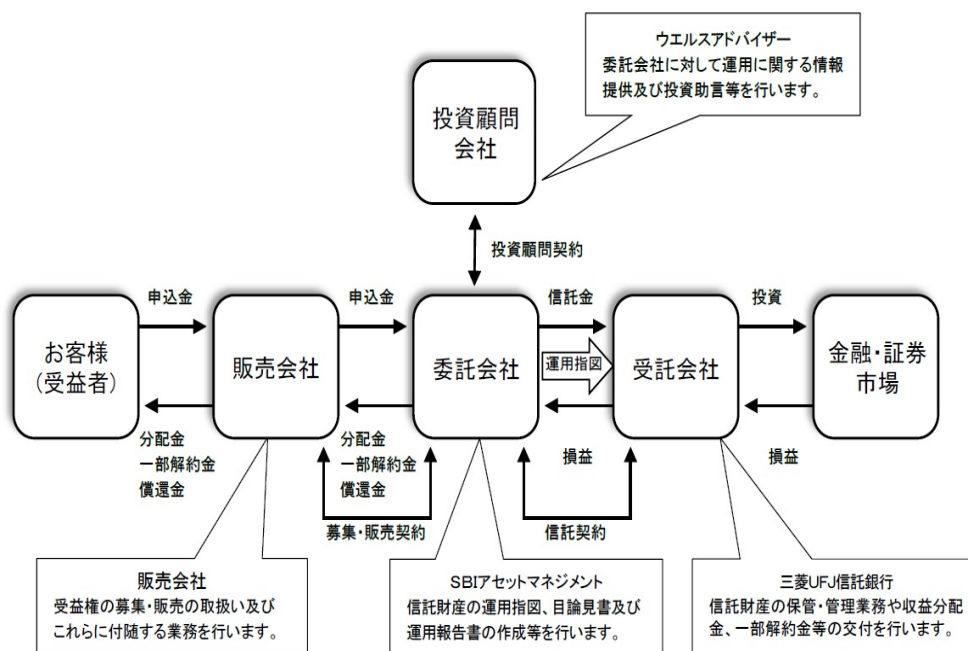
本ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

- ファンド・オブ・ファンズ方式とは、投資者の皆様からお預かりした資金を複数の投資信託に投資することにより運用を行う方式です。



※すべての資産に投資するとは限りません。

#### 委託会社及び本ファンドの関係法人との契約等の概要



(注) 受託会社は、業務の一部を再信託先である日本マスタートラスト信託銀行株式会社に委託しています。

#### 委託会社の概況（2025年12月末日現在）

- （ ） 資本金  
4億20万円
- （ ） 沿革

委託会社は、投資運用業務（投資信託の委託者としての業務、登録投資法人との資産の運用契約に基づく運用業務または投資一任契約に基づく運用業務）及び投資助言業務（投資顧問契約に基づく助言業務）を行う金融商品取引業者です。

委託会社は、旧株式会社日本債券信用銀行(現株式会社あおぞら銀行)を設立母体として成立し、その後、株主の異動によりソフトバンクグループの一員となりました。2002年5月1日には、同グループのソフトバンク・インベストメント株式会社の子会社である、ソフトバンク・アセット・マネジメント株式会社と合併し、エスピーアイ・アセット・マネジメント株式会社に商号変更しました。

2005年7月1日には、SBIアセットマネジメント株式会社に商号変更しました。

2006年8月2日には、委託会社の親会社（現SBIホールディングス株式会社）の主要株主であるソフトバンク株式会社（現ソフトバンクグループ株式会社）の子会社が、現SBIホールディングス株式会社の全株式を売却したことにより、ソフトバンクグループから独立し、SBIグループの一員となりました。

2019年12月20日には、委託会社の全株式をSBIアセットマネジメント・グループ株式会社（SBIAMG）が、モーニングスター株式会社より取得しました。SBIAMGはモーニングスター株式会社傘下の資産運用会社を統括する中間持株会社です。

2022年8月1日に、SBIアセットマネジメント株式会社、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社、SBI地方創生アセットマネジメント株式会社の3社合併をしました。なお、SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、合併後は同社名を継承しました。

2022年10月1日には、モーニングスター株式会社がSBIAMGを吸収合併したことにより、モーニングスター株式会社は過半数を超える筆頭株主となりました。なお、同社は2023年3月30日に、SBIグローバルアセットマネジメント株式会社に商号を変更しました。

2023年4月1日に、SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、新生インベストメント・マネジメント株式会社と合併しました。なお、商号はSBIアセットマネジメント株式会社を継承しました。

1986年 8月29日	日債銀投資顧問株式会社として設立
1987年 2月20日	有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律第4条にかかる登録
1987年 9月 9日	有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律第24条1項の規定に基づく投資一任契約業務の認可
2000年11月28日	証券投資信託及び証券投資法人に関する法律第6条の規定に基づく証券投資信託委託業の認可
2001年 1月 4日	あおぞらアセットマネジメント株式会社に商号変更
2002年 5月 1日	ソフトバンク・アセット・マネジメント株式会社との合併により、エスピーアイ・アセット・マネジメント株式会社に商号変更
2005年 7月 1日	SBIアセットマネジメント株式会社に商号変更
2007年 9月30日	金融商品取引法等の施行により同法第29条の規定に基づく金融商品取引業者の登録（関東財務局長（金商）第311号）
2022年 8月 1日	SBIアセットマネジメント株式会社、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社、SBI地方創生アセットマネジメント株式会社の3社合併。SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、合併後は同社名を継承。
2023年 4月 1日	SBIアセットマネジメント株式会社は、新生インベストメント・マネジメント株式会社と合併。SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、合併後は同社名を継承。

( )大株主の状況

株主名	住所	所有株数	所有比率
SBIグローバルアセットマネジメント株式会社	東京都港区六本木一丁目6番1号	1,378,823株	97.9%
PIMCO ASIA LIMITED	Suite 2201, 22nd Floor, Two International Finance Centre, 8 Finance Street, Central, Hong Kong	29,507株	2.1%

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

(各ファンド共通)

#### 1. 基本方針

この投資信託は、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

#### 2. 運用方法

#### ( )投資対象

別に定める上場投資信託証券(ETF)及び投資信託証券を主要投資対象とします。なお、それらを個々に又は総称して「投資対象ファンド」という場合があります。

別に定める投資対象ファンドについては、後述(2)投資対象[参考情報]<投資対象ファンドの概要>を参照ください。

#### ( )投資態度

本ファンドは、投資対象ファンドへの投資を通じて、世界各国の株式、債券、貸付債権(バンクローン)、ヘッジファンド、コモディティ、不動産投資信託証券(リート)等、さまざまな資産への分散投資を行うことで収益の獲得を目指します。また、スマートベータ指数に連動するETFや、国内及び海外の中小型株式へ投資を行うことにより、追加的な収益の獲得を追求します。ただし、運用期間中に亘り上記のすべての資産に投資するとは限りません。

投資対象ファンドの選定及び投資比率については、投資顧問(助言)会社であるウエルスアドバイザー株式会社からの助言を受け、各資産の期待リターンやリスク、各資産における相関係数等をもとに決定します。

投資対象ファンドは、定性、定量評価等により適宜見直す場合があります。したがって、当初組入れていた投資対象ファンドでも、運用期間中に投資対象から外したり、新たな投資対象ファンドを選定し投資対象とする場合があります。

(1) SBIグローバル・ラップファンド(安定型)は当初、債券型資産に70%、株式型資産に30%を基本配分とします。

(2) SBIグローバル・ラップファンド(積極型)は当初、債券型資産に30%、株式型資産に70%を基本配分とします。

投資比率については、市況見通しの変化等により基本配分比率に対して±10%の範囲で変動させることがあります。

経済環境の変化等が見込まれた場合には、基本配分比率の見直しを行う場合があります。

本ファンドにおける債券型資産とは、債券、ヘッジファンド、バンクローン等を言います。

また、株式型資産とは、株式、リート、コモディティ等を言います。

各ファンドが投資する投資対象ファンド及び各投資比率は次のとおりです。

区分	投資対象ファンド	投資比率 (My-ラップ安定型)	投資比率 (My-ラップ積極型)
----	----------	---------------------	---------------------

		(変更後)	(変更前)		(現在)
株式型資産	(1) 日本の大型株式指数に連動する投資対象ファンド	3.0%	2.5%	変更なし	5.0%
	(2) 日本の小型株式指数に連動する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		0.0%
	(3) 日本の中小型株式に投資する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		5.0%
	(4) 先進国（除く日本）の大型株式指数に連動する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		0.0%
	(5) 先進国（除く米国）の大型株式指数に連動する投資対象ファンド	4.5%	4.5%		15.0%
	(6) 米国の大型株式指数に連動する投資対象ファンド	12.0%	12.0%		25.0%
	(7) 米国の中小型株式指数に連動する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		5.0%
	(8) 欧州の大型株式指数に連動する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		0.0%
	(9) 欧州の中小型株式指数に連動する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		5.0%
	(10) 新興国の株式指数に連動する投資対象ファンド	2.0%	2.5%		2.5%
	(11) リート指数に連動する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		3.5%
	(12) コモディティ（金）	8.5%	8.5%		9.0%
株式型資産合計		30.0%	30.0%		75.0%
債券型資産	(1) 日本の債券指数に連動する投資対象ファンド	14.5%	14.5%		2.5%
	(2) 世界の債券に投資するファンド	38.0%	38.0%		12.0%
	(3) 米国の債券指数に連動する投資対象ファンド	0.0%	0.0%		0.0%
	(4) 先進国（除く米国）の債券指数に連動する投資対象ファンド	15.0%	15.0%		8.0%
	(5) 新興国の債券指数に連動する投資対象ファンド	2.5%	2.5%		2.5%
	(6) ヘッジファンド	0.0%	0.0%		0.0%
	(7) ヘッジファンド（ヘッジあり）	0.0%	0.0%		0.0%
債券型資産合計		70.0%	70.0%		25.0%
合計		100.0%	100.0%		100.0%

（変更日：2026年3月14日）

本ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行い、実質的な運用は投資信託証券への投資を通じて行います。

投資対象ファンドの合計投資比率は高位に維持することを原則とします。

外貨建資産については、為替ヘッジのため外国為替の売買の予約を行うことがあります。

資金動向、市況動向に急激な変化が生じたとき等並びに投資信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。

投資先ファンドは、各ファンドの運用方針達成のため、投資先ファンドの具体的な投資先および投資手法等を考慮して選定しております。

## （２）【投資対象】

（各ファンド共通）

投資の対象とする資産の種類(信託約款第16条)

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

１．次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ 有価証券

ロ 金銭債権

ハ 約束手形

２．次に掲げる特定資産以外の資産

為替手形

## 運用の指図範囲(信託約款第17条第1項)

委託会社は、信託金を、主として別に定める上場投資信託証券（ETF）及び投資信託証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパー及び短期社債等
2. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
3. 国債証券、地方債証券、特別の法律により設立された法人の発行する債券及び社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券及び短期社債等を除きます。）
4. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、3.の証券を以下「公社債」といい、公社債にかかる運用の指図は買い現先取引（売戻し条件付の買入れ）及び債券貸借取引（現金担保付き債券借入れ）に限り行うことができます。

## 金融商品の指図範囲(信託約款第17条第2項)

委託会社は、信託金を、 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。次項において同じ。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

前記の規定に関わらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を前記 1.から 4.までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

## 〔参考情報〕

## &lt;投資対象ファンドの概要&gt;

投資対象ファンドは以下の通りです。投資対象ファンドは、定性、定量評価等により適宜見直す場合があります。したがって、当初組入れられていた投資対象ファンドでも、運用期間中に投資対象から外したり、新たな投資対象ファンドを選定し投資対象とする場合があります。

なお、下記は2026年3月14日以降に投資する投資対象ファンドの内容です。2025年12月末時点で委託会社が取得可能な情報を基に記載しており、今後変更される場合があります。

## 日本大型株式

ファンド名称	iシェアーズ・コア TOPIX ETF
表示通貨	円
発行地	日本
ファンドの目的及び基本的性格	日本の株式市場全体の動向を示す「東証株価指数（TOPIX）」への連動を目指して運用を行います。TOPIXに採用されている銘柄および採用が決定された銘柄の株式を投資対象とします。
ファンドの関係法人（管理会社等）	委託会社：ブラックロック・ジャパン株式会社

管理報酬等	年率0.0495%（税抜：0.045%）
日本中小型株式	
ファンド名称	One ETF 高配当日本株
表示通貨	円
発行地	日本
当初設定	2017年5月22日
決算日	毎年4月および10月の各8日
ファンドの目的及び基本的性格	<p>1.S&amp;P/JPX 配当貴族指数（以下、「対象指数」という場合があります。）に連動する投資成果をめざして運用を行います。</p> <p>2.信託財産の1口当たりの純資産額の変動率を対象指数の変動率に一致させることを目的として、対象指数に採用されている銘柄（採用予定の銘柄を含む。）の株式に対する投資として運用を行います。</p> <p>3.信託財産中に占める個別銘柄の株数の比率は、対象指数における個別銘柄の構成比率から算出される株数の比率程度を維持することを原則とします。</p>
ファンドの関係法人（管理会社等）	委託会社：アセットマネジメントOne株式会社
管理報酬等	純資産総額に対して年率0.308%（税抜：0.28%）

## 先進国（除く米国）大型株式

ファンド名称	State Street SPDR ポートフォリオ先進国株式（除く米国）ETF
表示通貨	米ドル
発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	S&Pディベロップド（除く米国）・ブロード・マーケット・インデックスに連動する投資成果を目指すETF（上場投資信託）です。米国以外の先進国を所在国とする上場企業を投資ユニバースとします。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：State Street Global Advisors.
管理報酬等	年率0.03%

## 米国大型株式

ファンド名称	シュワブ・米国大型株グロース・ETF
表示通貨	米ドル
発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	米国の大型成長株のパフォーマンスを測定する「ダウジョーンズ・米国大型成長株・インデックス」に連動する投資成果を目指して運用を行います。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：Charles Schwab Investment Management, Inc.
管理報酬等	年率0.04%

## 米国中小型株式

ファンド名称	バンガード・ミッドキャップ・グロースETF
表示通貨	米ドル

発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	米国の中型成長株のパフォーマンスを測定する「CRSP USミッドキャップ・グロース・インデックス」に連動する投資成果を目指して運用を行います。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：The Vanguard Group, Inc.
管理報酬等	年率0.07%

## 欧州中小型株式

ファンド名称	フランクリン・FTSE ユーロゾーン ETF
表示通貨	米ドル
発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	欧州先進国10カ国の大型株・中型株のパフォーマンスを測定するFTSE ユーロゾーン先進国・インデックスに連動する投資成果を目指して運用を行います。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：Franklin Templeton
管理報酬等	年率0.09%

## 新興国株式

ファンド名称	State Street SPDR ポートフォリオ 新興国株式 ETF
表示通貨	米ドル
発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	新興国株式市場全体の動きを表すS&P エマージングBMI指数に連動する投資成果を目指して運用を行います。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：State Street Global Advisors Funds Management, Inc.
管理報酬等	年率0.07%

## コモディティ（金）

ファンド名称	SPDR ゴールド・ミニシェアーズ・トラスト
表示通貨	米ドル
発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	市場での現物の金地金の取引価格に連動する投資成果を目指して運用を行います。 金地金価格は、ロンドン市場における取引価格が国際的な指標です。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：State Street Global Advisors Funds Management, Inc.
管理報酬等	年率0.10%

## リート

ファンド名称	State Street 不動産セレクト・セクター SPDR ETF
表示通貨	米ドル
発行地	米国

ファンドの目的及び基本的性格	S&P500指数における不動産セクターのパフォーマンスを計測する指標である不動産セレクト・セクター指数の値動きに、経費控除前ベースで概ね連動する投資成果を追求します。
ファンドの関係法人	運用会社：State Street Global Advisors Funds Management, Inc.
管理報酬等	年率0.08%

## 日本債券

ファンド名称	NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI総合連動型上場投信
表示通貨	円
発行地	日本
ファンドの目的及び基本的性格	ベンチマークである「NOMURA - BPI総合」に連動する投資成果を目指して運用を行います。
ファンドの関係法人	委託会社：野村アセットマネジメント株式会社
管理報酬等	年率0.077% (税抜：0.07%)

## グローバル債券

ファンド名称	ピムコ・バミューダ・インカムファンドA クラスX (JPY)
表示通貨	円
発行地	バミューダ
当初設定	2016年3月15日
決算日	10月31日
ファンドの目的及び基本的性格	「ピムコ・バミューダ・インカムファンド(M)」受益証券を主要投資対象として、投資適格未満の銘柄も含めた世界の幅広い銘柄の中から、米ドル建ての債券等を中心に投資を行うことで、長期的な信託財産の成長を目指すとともに、利子収入の最大化を目指す運用を行います。
ファンドの関係法人(管理会社等)	管理会社：Pacific Investment Management Company, LLC 投資顧問会社：ピムコジャパンリミテッド
投資の基本方針	投資適格未満の銘柄も含めた世界の幅広い債券等のうち、主として米ドル建ての債券及び債券関連派生商品等に投資します。原則として米ドル売り円買いの為替取引を行います。
管理報酬等	管理会社は、管理報酬として、当該外国籍投信の純資産総額の日々平均残高に対して年率0.60%にて計算される金額を受領します。

## 先進国（除く米国）債券

ファンド名称	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）
表示通貨	米ドル
発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	ブルームバーグ・グローバル総合（米ドル除く）浮動調整RIC基準インデックス（米ドルヘッジベース）のパフォーマンスへの連動を目指します。為替レートの不確実性への保護を追求する目的で、組入れ証券の該当通貨の米ドルに対するヘッジ戦略を採用していますが、あくまでも米ドルベースのヘッジ戦略であるため、日本円をベースとした投資家にとっては為替リスクを伴います。インデックス・サンプリング法を用いたパッシブ運用です。ファンドはフルインベストメントを維持します。 米国以外の主要な債券市場全体への、幅広く分散したエクスポージャーを提供します。低経費によってトラッキングエラーを最小限に抑えます。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：The Vanguard Group, Inc.
管理報酬等	年率0.07%

## 新興国債券

ファンド名称	バンガード・米ドル建て新興国政府債券ETF
表示通貨	米ドル
発行地	米国
ファンドの目的及び基本的性格	ブルームバーグ米ドル建て新興市場政府債RIC基準インデックスに連動する投資成果を目指して運用を行います。
ファンドの関係法人（管理会社等）	運用会社：The Vanguard Group, Inc.
管理報酬等	年率0.15%

## (3) 【運用体制】

運用業務方法に関する社内規則に則り、以下のプロセスで運用が行われます。

## 市場環境分析・企業分析

ファンドマネジャー、アナリストによる市場環境、業種、個別企業などの調査・分析及び基本投資戦略の協議・策定を行います。

## 投資基本方針の策定

最高運用責任者のもとで開催される「運用会議」において、市場動向・投資行動・市場見通し・投資方針等を策定します。

最高運用責任者は、組織規程の運用部門の長とします。

## 運用基本方針の決定

「運用会議」の策定内容を踏まえ、常勤取締役、最高運用責任者、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成される「投資戦略委員会」において、運用の基本方針が決定されます。

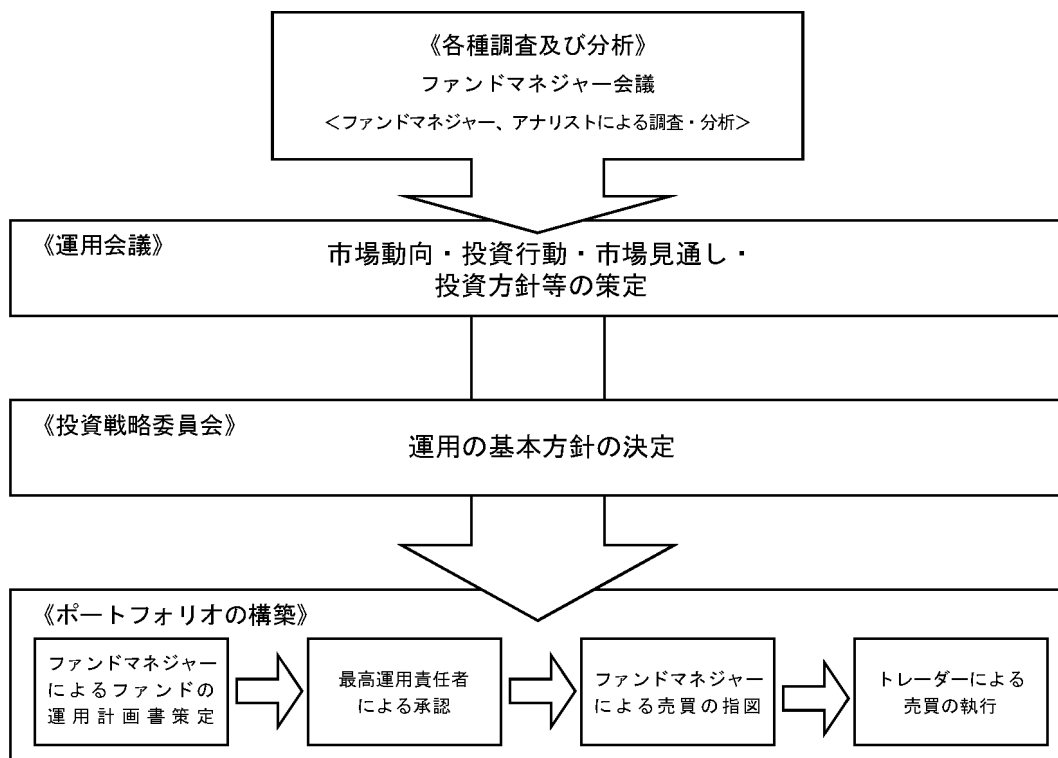
投資銘柄の策定、ポートフォリオの構築

ファンドマネジャーは、この運用の基本方針に沿って、各ファンドの運用計画書を策定し、最高運用責任者の承認後、売買の指図を行います。

ただし、未公開株及び組合への投資を行う場合は、それぞれ「未公開株投資委員会」、「組合投資委員会」での承認後、売買の指図等を行います。

パフォーマンス分析、リスク分析・評価

ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行い、運用方針の確認・見直しを行います。



コンプライアンス部長がファンドに係る意思決定を監督します。

#### < 受託会社に対する管理体制 >

受託会社（再信託先を含む）に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行い業務遂行状況を確認しています。また、受託会社より内部統制の整備及び運用状況の報告書を受け取っています。

上記体制は、今後、変更となる場合があります。

#### （４）【分配方針】

年１回決算（毎年12月15日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。）を行い、毎計算期末に原則として以下の方針に基づき分配を行います。

分配対象額は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みません。）等の全額とします。

収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払い及びその金額について示唆、保証するものではありません。

収益分配に充当せず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- ( ) 分配金、配当金、利子及びこれらに類する収益から支払利息を控除した額(以下「配当等収益」といいます。)は、諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。
  - ( ) 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下「売買益」といいます。)は、諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。
  - ( ) 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。
- (注) 分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払いを開始します。

## (5) 【投資制限】

### (各ファンド共通)

本ファンドは、以下の投資制限にいたします。

信託約款の「運用の基本方針」に定める投資制限

- ( ) 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- ( ) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
- ( ) 同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- ( ) 株式への直接投資は行いません。
- ( ) デリバティブの直接利用は行いません。
- ( ) 投資信託証券が一般社団法人投資信託協会の規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、当該投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ( ) 一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

信託約款上のその他の投資制限

- ( ) 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限(信託約款第20条)  
外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。
- ( ) 外国為替予約取引の指図及び範囲(信託約款第21条)  
委託会社は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

その他の法令上の投資制限

本ファンドに適用されるその他の法令上の投資制限は以下の通りです。

委託会社は、委託会社が運用の指図を行うすべての投資信託について、信託財産として有する同一法人の発行する株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合には、かかる株式を取得することを受託会社に指図することはできません。(投信法第9条)

その他

- ( ) 資金の借入れ(信託約款第27条)  
(イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、信託財産において一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、資金の借入れ(コール市場を通

じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

- (ロ) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金の借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金及び有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- (ハ) 収益分配金の再投資に係る借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (ニ) 借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

### 3【投資リスク】

本ファンドは、主として投資信託証券(投資対象ファンド)への投資を通じて、世界各国の株式、債券、貸付債権(バンクローン)、ヘッジファンド、コモディティ、不動産投資信託証券(リート)等、値動きのある金融商品等に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産には為替変動リスクもあります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。

本ファンドに生じた利益及び損益はすべて投資者の皆様様に帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。本ファンドの基準価額の主な変動要因としては以下のものがあります。ただし、基準価額の変動要因は以下に限定されるものではありません。

#### ・ 資産配分リスク

資産配分リスクとは、複数資産への投資(資産配分)を行った場合に、投資成果の悪い資産への配分が大きかったため、投資全体の成果も悪くなってしまいうリスクをいいます。本ファンドは、投資対象ファンドへの投資を通じてわが国及び海外株式・債券・オルタナティブ資産(ヘッジファンド、コモディティ、リート(不動産投資信託))等、さまざまな資産クラスの金融商品に投資を行いますが、投資比率が高い資産の価値が下落した場合や、複数の資産の価値が同時に下落した場合、本ファンドの基準価額はより大きく影響を受け損失を被ることがあります。

#### ・ 株価変動リスク

一般に株価は経済・政治情勢や発行企業の業績等の影響を受け変動しますので、投資対象ファンドが組入れる株式の価格が変動し、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

#### ・ 為替変動リスク

為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

#### ・ 債券価格変動リスク

債券(公社債等)は、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して価格が変動します。また、債券価格は金利変動による影響を受け、一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落します。これらの影響により債券の価格が変動した場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

#### ・ リート(不動産投資信託)の価格変動リスク

一般にリート(不動産投資信託)が投資対象とする不動産の価値及び当該不動産から得る収入は、当該国または国際的な景気、経済、社会情勢等の変化等により変動します。リート(不動産

投資信託）の価格及び分配金がその影響を受け下落した場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

- ・ ヘッジファンドに投資するリスク

一般にヘッジファンドは、運用会社が独自の運用手法によって株式、債券等の有価証券及び各種派生商品（デリバティブ）等へ投資を行います。デリバティブ取引は、取引の相手方（カウンターパーティ）の倒産などにより、当初の契約通りの取引を実行できずに損失を被る可能性や、種類によっては原資産の価格変動以上に価格が変動する可能性、取引を決済する場合に理論価格よりも大幅に不利な条件でしか反対売買ができなくなる可能性や反対売買そのものができなくなる可能性等があり、その結果、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。また、運用者の運用能力に大きく依存する場合があります。市場の動向にかかわらず損失が発生する可能性があります。

- ・ コモディティ投資リスク

一般にコモディティ価格は商品の需給や金利変動、天候、景気、農業生産、政治・経済情勢及び政策等の影響を受け変動します。これらにより、本ファンドの基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。

- ・ カントリーリスク

投資対象ファンドが組入れる金融商品等の発行国の政治・経済・社会情勢の変化で金融・証券市場が混乱し、金融商品等の価格が大きく変動する可能性があります。一般に新興国市場は、市場規模、法制度、インフラなどが限定的なこと、価格変動性が大きいこと、決済の効率性が低いことなどから、当該リスクが高くなります。

- ・ 信用リスク

投資対象ファンドが組入れる金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができなくなるリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被るリスクがあります。また、金融商品等の取引相手方にデフォルト（債務不履行）が生じた場合等、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

- ・ 流動性リスク

投資対象ファンドが組入れる金融商品等の市場規模が小さく取引量が限られる場合などには、機動的に売買できない可能性があります。また、保有する金融商品等が期待された価格で処分できず、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

#### その他の留意点

本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

本ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待される価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。

収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。

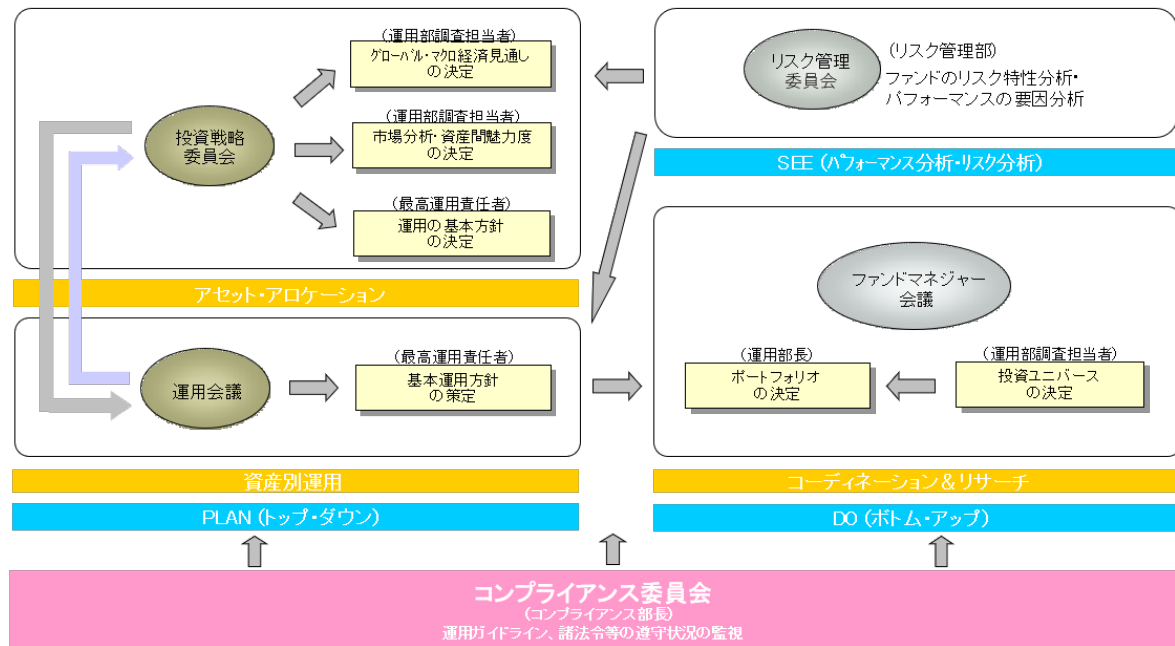
収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

## 《リスク管理体制》

## 運用に関するリスク管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各委員会を設けて行っております。

流動性リスクの管理においては、委託会社が規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。



運用者の意思決定方向を調整・相互確認するために、下記の会議を運営します。

会議の名称	頻度	内 容
投資戦略委員会	原則月1回	常勤取締役、最高運用責任者、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する。 運用の基本方針 市場見通し、等について協議する。
運用会議	原則月1回	最高運用責任者、運用部及び商品企画部に在籍する者をもって構成する。 市場動向 今月の投資行動 市場見通し 今後の投資方針、等についての情報交換、議論を行う。
リスク管理委員会	原則月1回	常勤取締役、最高運用責任者、リスク管理部長、商品企画部長、マーケティング部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する。 ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視等を行う。
ファンドマネジャー会議	随時	運用担当者及び調査担当者をもって構成する。 個別銘柄の調査報告及び情報交換、ファンドの投資戦略について議論を行う。

未公開株投資委員会	随時	最高運用責任者、運用部長、未公開株運用担当者、未公開株調査担当者及びコンプライアンス部長をもって構成する。 未公開株式の購入及び売却の決定を行う。
組合投資委員会	随時	最高運用責任者、運用部長、組合運用担当者、組合の投資する資産の調査担当者及びコンプライアンス部長をもって構成する。 組合への新規投資及び契約変更の決定を行う。
商品検討委員会	随時	常勤取締役、運用部長、リスク管理部長、投信計理部長、コンプライアンス部長、商品企画部長、マーケティング部長及び業務管理部長をもって構成する。 新商品等についての取扱い等の可否、商品性の変更に関連する基本事項等の審議・決定を行う。
コンプライアンス委員会	原則月1回	常勤取締役及びコンプライアンス部長をもって構成する。 法令等、顧客ガイドライン、社内ルールの遵守状況の報告及び監視を行う。
プロダクトガバナンス委員会	原則月1回	常勤取締役、運用部長、リスク管理部長、コンプライアンス部長、商品企画部長、マーケティング部長及び業務管理部長をもって構成する。 基本的商品戦略について、投資戦略委員会・運用会議・商品検討委員会の内容、市況及び業界動向を鑑みた上で決定する。また、商品戦略に係る对外公表を担当する。

上記体制は、今後、変更となる場合があります。

### コンプライアンス

コンプライアンス委員会において、業務全般にかかる法令諸規則、社内ルール等を遵守していくための諸施策の検討や諸施策の実施状況の報告等が行われています。また、コンプライアンス部長は、遵守状況の管理・監督を行うとともに、必要に応じて当社の役職員に諸施策の実行を指示します。

### 機関化回避に関する運営

グループ内取引による機関化を回避するために、グループ企業との各種取引について監査をする外部専門家（弁護士）を選任した上で、自ら率先垂範して運営しています。

# 参考情報

## ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移

### My-ラップ（安定型）

（2021年1月～2025年12月）



### My-ラップ（積極型）

（2021年1月～2025年12月）



## ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

（2021年1月～2025年12月）



（2021年1月～2025年12月）



\*上記の分配金再投資基準価額及び年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額及び実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

\*「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」は、過去5年間の年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

\*ファンドの年間騰落率算出において、過去5年間分のデータがない場合は以下のルールに基づき表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示しています。

### 〈代表的な各資産クラスの指数〉

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数(除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数(除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子配当込み指数です。

### 〈各指数の概要〉

日本株:Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株:Morningstar 先進国株式指数(除く日本)は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株:Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債:Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債:Morningstar グローバル国債指数(除く日本)は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債:Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

### 〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.又はモーニングスター・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社(これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います)が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス(以下「Morningstarインデックス」と言います)の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービスマーク並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び/又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害(逸失利益を含む)について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

## 4【手数料等及び税金】

### (1)【申込手数料】

## 通常のお申込み

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.3%（税抜3.0%）を上限として販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額とします。

お申込手数料は販売会社により異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。なお、下記に記載の照会先においてもご確認ください。

\* 申込手数料には、消費税等が課されます。

（注）申込手数料とは、購入時の商品説明、情報提供及び事務手続き等にかかる対価のことをいいます。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社  
 電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）  
 ホームページ <https://www.sbiasset.com/>

確定拠出年金制度に基づくお申込み

申込手数料はかかりません。

## （2）【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はかかりません。

ただし、換金時に、基準価額から信託財産留保額（当該基準価額に対し0.1%）が差引かれます。

（注）信託財産留保額とは、換金に伴う有価証券売買委託手数料等の費用のことをいいます。

## （3）【信託報酬等】

信託報酬は、信託財産の日々の純資産総額に年1.375%（税抜：年1.25%）の率を乗じて得た額とします。運用管理報酬（信託報酬）の配分は下記の通りとします。

信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率

		My-ラップ （安定型）	My-ラップ （積極型）	役務の内容
支払先	委託会社	税抜：年0.525%		ファンドの運用、基準価額の算出等の対価
	販売会社	税抜：年0.7%		購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理及び事務手続き等の対価
	受託会社	税抜：年0.025%		運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
投資対象ファンドの信託報酬 <sup>1</sup>		年0.27%程度	年0.14%程度	投資対象とする投資信託証券の管理報酬等
実質的な負担（概算値） <sup>2</sup>		年1.65% （税込）程度	年1.51% （税込）程度	

上記各支払先への料率には、別途消費税等相当額がかかります。

投資顧問（助言）会社への報酬は委託会社報酬の中から支払われます。

投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。上記の費用等については、本書作成日現在の情報であり、今後変更される場合があります。

1 基本投資比率で試算した信託報酬率であり、実際の組入れ状況により変動します。また、投資対象ファンドの変更等により、数値は変動する場合があります。

2 投資対象ファンドの信託報酬を加味した、投資者の皆様が実質的に負担する信託報酬率になります。

信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（休業日の場合は翌営業日。以下同じ。）及び毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。委託会社及び販売会社の報酬は本ファンドから委託会社に対して支弁され、販売会社の報酬は委託会社より販売会社に対して支払われます。受託会社の報酬は本ファンドから受託会社に対して支弁されます。

#### （４）【その他の手数料等】

信託財産にかかる監査費用及び当該監査費用にかかる消費税相当額は計算期間を通じて毎日計上し、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

有価証券売買時の売買委託手数料、保管費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する費用（法律・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、格付費用、受益権の管理事務に関連する費用等を含みます。）等及び受託者の立替えた立替金の利息は等が信託財産から差引かれます。なお、その他の費用は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

また、当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

#### （５）【課税上の取扱い】

ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。

本ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

収益分配時・換金（解約）・償還時に受益者が負担する税金は2025年12月末日現在、以下の通りです。なお、以下の内容は税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

個人の受益者に対する課税

##### イ．収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は、配当所得として課税され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%及び地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告による総合課税（配当控除は適用されません。）もしくは申告分離課税のいずれかを選択することも可能です。

##### ロ．解約金及び償還金に対する課税

換金（解約）及び償還時の差益（個別元本超過額）は譲渡所得とみなされ、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%及び地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。

なお、源泉徴収口座（特定口座）を選択することも可能です。

・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

#### 法人の投資者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金（解約）及び償還時の差益（個別元本超過額）については配当所得として課税され、15.315%（所得税15%及び復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収が行われます。地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。

また、益金不算入制度の適用はありません。

#### 確定拠出年金加入者に対する課税

確定拠出年金法に規定する資産管理機関の場合、収益分配金ならびに解約・償還益（個別元本超過額）については、所得税及び地方税は非課税となっております。

なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

#### <注1> 個別元本について

受益者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料及び当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込の場合等により把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

#### <注2> 収益分配金の課税について

追加型証券投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、イ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、ロ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

詳しくは、販売会社または税務署等にお問い合わせください。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更となる場合があります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家に確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

## (1)【投資状況】

## SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

(2025年12月30日現在)

資産の種類	国名	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資信託受益証券	日本	166,662,950	16.21
	アメリカ	451,342,953	43.89
	バミューダ	380,216,474	36.97
	小計	998,222,377	97.07
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		30,134,385	2.93
合計(純資産総額)		1,028,356,762	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

(2025年12月30日現在)

資産の種類	国名	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資信託受益証券	日本	423,663,060	11.83
	アメリカ	2,601,245,516	72.65
	バミューダ	410,342,644	11.46
	小計	3,435,251,220	95.95
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		145,023,937	4.05
合計(純資産総額)		3,580,275,157	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

(2025年12月30日現在)

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
バミューダ	投資信託受益証券	PIMCO Bermuda Income Fund AX	31,260.09	12,097.99	378,184,289	12,163	380,216,474	36.97
アメリカ	投資信託受益証券	VANGUARD TOTAL INTL BOND ETF	19,587	7,701.18	150,843,138	7,572.80	148,328,575	14.42
日本	投資信託受益証券	NEXT FUNDS JP BOND NOMURA - BPI	170,130	844	143,710,883	837.2	142,432,836	13.85
アメリカ	投資信託受益証券	SCHWAB U.S. LARGE-CAP GROWTH	23,630	5,088.20	120,234,166	5,155.52	121,824,956	11.85
アメリカ	投資信託受益証券	SPDR GOLD MINISHARES TRUST	6,412	13,323.25	85,428,717	13,432.84	86,131,421	8.38
アメリカ	投資信託受益証券	SPDR PORTFOLIO DEVELOPED WORLD EX-US ETF	6,457	6,970.05	45,005,620	6,984.14	45,096,602	4.39
アメリカ	投資信託受益証券	VANGUARD EMERGING MARKETS GOVERNMENT BOND ETF	2,402	10,567.79	25,383,855	10,591.28	25,440,264	2.47
アメリカ	投資信託受益証券	SPDR PORTFOLIO S&P EMERGING MARKETS ETF	3,356	7,333.27	24,610,456	7,306.65	24,521,135	2.38

日本	投資信託受益証券	ISHARES CORE TOPIX ETF	68,660	354	24,360,568	352.9	24,230,114	2.36
----	----------	------------------------	--------	-----	------------	-------	------------	------

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## 種類別投資比率

(2025年12月30日現在)

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	97.07
合計	97.07

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## SBIグローバル・ラップファンド(積極型)

(2025年12月30日現在)

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
アメリカ	投資信託受益証券	SCHWAB U.S. LARGE-CAP GROWTH	168,753	5,088.20	858,649,015	5,155.52	870,009,602	24.30
アメリカ	投資信託受益証券	SPDR PORTFOLIO DEVELOPED WORLD EX-US ETF	73,842	6,970.05	514,682,521	6,984.14	515,722,984	14.40
パミューダ	投資信託受益証券	PIMCO Bermuda Income Fund AX	33,736.96	12,098.94	408,181,777	12,163	410,342,644	11.46
アメリカ	投資信託受益証券	SPDR GOLD MINISHARES TRUST	23,165	13,323.25	308,633,225	13,432.84	311,171,924	8.69
アメリカ	投資信託受益証券	VANGUARD TOTAL INTL BOND ETF	35,676	7,701.18	274,747,526	7,572.80	270,167,470	7.55
アメリカ	投資信託受益証券	VANGUARD MID-CAP GROWTH ETF	3,868	44,297.24	171,341,758	44,370.66	171,625,750	4.79
アメリカ	投資信託受益証券	FRANKLIN FTSE EUROZONE ETF	33,069	5,183.70	171,419,829	5,186.83	171,523,374	4.79
日本	投資信託受益証券	One ETF 高配当日本株	4,286	39,680	170,068,480	39,730	170,282,780	4.76
日本	投資信託受益証券	ISHARES CORE TOPIX ETF	478,720	354	169,849,856	352.9	168,940,288	4.72
アメリカ	投資信託受益証券	SS REAL ESTATE SELECT SECT SPDR	18,792	6,378.79	119,870,273	6,361.03	119,536,528	3.34
アメリカ	投資信託受益証券	VANGUARD EMERGING MARKETS GOVERNMENT BOND ETF	8,153	10,567.79	86,159,273	10,591.28	86,350,738	2.41
アメリカ	投資信託受益証券	SPDR PORTFOLIO S&P EMERGING MARKETS ETF	11,652	7,333.27	85,447,266	7,306.65	85,137,146	2.38
日本	投資信託受益証券	NEXT FUNDS JP BOND NOMURA - BPI	100,860	844	85,198,514	837.2	84,439,992	2.36

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## 種類別投資比率

(2025年12月30日現在)

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.95
合計	95.95

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

### 【投資不動産物件】

## SBIグローバル・ラップファンド(安定型)

該当事項はありません。

### SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

該当事項はありません。

#### 【その他投資資産の主要なもの】

### SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

該当事項はありません。

### SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

該当事項はありません。

## （3）【運用実績】

### 【純資産の推移】

### SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

2025年12月30日（直近日）現在、同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

年 月 日	純資産総額 (円)		1万口当たり純資産額 (円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第2計算期間末 (2016年12月15日)	2,742,210,634	2,742,210,634	9,918	9,918
第3計算期間末 (2017年12月15日)	1,921,290,334	1,921,290,334	10,328	10,328
第4計算期間末 (2018年12月17日)	1,616,965,151	1,616,965,151	9,742	9,742
第5計算期間末 (2019年12月16日)	1,342,763,665	1,342,763,665	10,305	10,305
第6計算期間末 (2020年12月15日)	1,097,288,851	1,097,288,851	10,719	10,719
第7計算期間末 (2021年12月15日)	1,041,957,883	1,041,957,883	11,685	11,685
第8計算期間末 (2022年12月15日)	957,851,882	957,851,882	11,175	11,175
第9計算期間末 (2023年12月15日)	998,290,186	998,290,186	12,299	12,299
第10計算期間末 (2024年12月16日)	1,025,677,942	1,025,677,942	13,884	13,884
第11計算期間末 (2025年12月15日)	1,028,458,128	1,028,458,128	15,186	15,186
2024年12月末日	1,021,610,599		13,935	
2025年 1月末日	1,021,202,350		13,950	
2月末日	999,342,327		13,687	
3月末日	996,895,435		13,643	
4月末日	979,499,316		13,511	
5月末日	990,974,675		13,688	
6月末日	1,006,857,561		13,934	
7月末日	1,018,912,529		14,178	
8月末日	977,072,836		14,266	
9月末日	1,001,838,235		14,615	
10月末日	1,037,092,256		15,094	

11月末日	1,035,232,832		15,216	
12月末日	1,028,356,762		15,259	

(注)表中の末日とはその月の最終営業日を指します。

### SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

2025年12月30日（直近日）現在、同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

年 月 日	純資産総額		1万口当たり純資産額	
	(円)		(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第2計算期間末 (2016年12月15日)	6,066,965,708	6,066,965,708	9,941	9,941
第3計算期間末 (2017年12月15日)	4,587,265,347	4,587,265,347	11,188	11,188
第4計算期間末 (2018年12月17日)	3,658,490,669	3,658,490,669	10,172	10,172
第5計算期間末 (2019年12月16日)	3,201,942,814	3,201,942,814	11,118	11,118
第6計算期間末 (2020年12月15日)	2,701,779,587	2,701,779,587	11,752	11,752
第7計算期間末 (2021年12月15日)	2,796,499,056	2,796,499,056	13,740	13,740
第8計算期間末 (2022年12月15日)	2,595,763,264	2,595,763,264	13,292	13,292
第9計算期間末 (2023年12月15日)	2,879,069,820	2,879,069,820	15,604	15,604
第10計算期間末 (2024年12月16日)	3,214,242,745	3,214,242,745	19,282	19,282
第11計算期間末 (2025年12月15日)	3,571,270,414	3,571,270,414	22,791	22,791
2024年12月末日	3,201,918,286		19,445	
2025年 1月末日	3,181,369,159		19,491	
2月末日	3,063,443,150		18,805	
3月末日	3,029,923,471		18,624	
4月末日	2,957,127,268		18,317	
5月末日	3,077,132,075		19,117	
6月末日	3,164,702,408		19,674	
7月末日	3,280,186,413		20,440	
8月末日	3,294,873,713		20,626	
9月末日	3,399,907,607		21,361	
10月末日	3,556,042,270		22,402	
11月末日	3,581,205,053		22,714	
12月末日	3,580,275,157		23,014	

(注)表中の末日とはその月の最終営業日を指します。

### 【分配の推移】

### SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

期 間	計算期間	1万口当たりの分配金（円）
第2計算期間	2015年12月16日～2016年12月15日	0
第3計算期間	2016年12月16日～2017年12月15日	0

第4計算期間	2017年12月16日～2018年12月17日	0
第5計算期間	2018年12月18日～2019年12月16日	0
第6計算期間	2019年12月17日～2020年12月15日	0
第7計算期間	2020年12月16日～2021年12月15日	0
第8計算期間	2021年12月16日～2022年12月15日	0
第9計算期間	2022年12月16日～2023年12月15日	0
第10計算期間	2023年12月16日～2024年12月16日	0
第11計算期間	2024年12月17日～2025年12月15日	0

## SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

期 間	計算期間	1万口当たりの分配金（円）
第2計算期間	2015年12月16日～2016年12月15日	0
第3計算期間	2016年12月16日～2017年12月15日	0
第4計算期間	2017年12月16日～2018年12月17日	0
第5計算期間	2018年12月18日～2019年12月16日	0
第6計算期間	2019年12月17日～2020年12月15日	0
第7計算期間	2020年12月16日～2021年12月15日	0
第8計算期間	2021年12月16日～2022年12月15日	0
第9計算期間	2022年12月16日～2023年12月15日	0
第10計算期間	2023年12月16日～2024年12月16日	0
第11計算期間	2024年12月17日～2025年12月15日	0

## 【収益率の推移】

## SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

期	計算期間	収益率（％）
第2計算期間	2015年12月16日～2016年12月15日	0.94
第3計算期間	2016年12月16日～2017年12月15日	4.13
第4計算期間	2017年12月16日～2018年12月17日	5.67
第5計算期間	2018年12月18日～2019年12月16日	5.78
第6計算期間	2019年12月17日～2020年12月15日	4.02
第7計算期間	2020年12月16日～2021年12月15日	9.01
第8計算期間	2021年12月16日～2022年12月15日	4.36
第9計算期間	2022年12月16日～2023年12月15日	10.06
第10計算期間	2023年12月16日～2024年12月16日	12.89
第11計算期間	2024年12月17日～2025年12月15日	9.38

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数を記載しております。

## SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

期	計算期間	収益率（％）
第2計算期間	2015年12月16日～2016年12月15日	1.74

第3計算期間	2016年12月16日～2017年12月15日	12.54
第4計算期間	2017年12月16日～2018年12月17日	9.08
第5計算期間	2018年12月18日～2019年12月16日	9.30
第6計算期間	2019年12月17日～2020年12月15日	5.70
第7計算期間	2020年12月16日～2021年12月15日	16.92
第8計算期間	2021年12月16日～2022年12月15日	3.26
第9計算期間	2022年12月16日～2023年12月15日	17.39
第10計算期間	2023年12月16日～2024年12月16日	23.57
第11計算期間	2024年12月17日～2025年12月15日	18.20

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数を記載しております。

#### （４）【設定及び解約の実績】

##### SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

期	計算期間	設定数量 （口）	解約数量 （口）	発行済み数量 （口）
第2計算期間	2015年12月16日～2016年12月15日	218,570,336	542,084,777	2,764,986,698
第3計算期間	2016年12月16日～2017年12月15日	92,659,106	997,394,790	1,860,251,014
第4計算期間	2017年12月16日～2018年12月17日	132,546,541	333,039,013	1,659,758,542
第5計算期間	2018年12月18日～2019年12月16日	54,703,116	411,450,992	1,303,010,666
第6計算期間	2019年12月17日～2020年12月15日	29,187,330	308,541,643	1,023,656,353
第7計算期間	2020年12月16日～2021年12月15日	35,246,118	167,208,904	891,693,567
第8計算期間	2021年12月16日～2022年12月15日	28,523,997	63,042,488	857,175,076
第9計算期間	2022年12月16日～2023年12月15日	23,712,364	69,228,367	811,659,073
第10計算期間	2023年12月16日～2024年12月16日	30,904,785	103,812,665	738,751,193
第11計算期間	2024年12月17日～2025年12月15日	33,436,610	94,949,302	677,238,501

(注)本邦外における設定及び解約の実績はありません。

##### SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

期	計算期間	設定数量 （口）	解約数量 （口）	発行済み数量 （口）
第2計算期間	2015年12月16日～2016年12月15日	610,447,440	1,568,887,495	6,102,991,765
第3計算期間	2016年12月16日～2017年12月15日	340,593,791	2,343,418,175	4,100,167,381
第4計算期間	2017年12月16日～2018年12月17日	228,929,382	732,536,485	3,596,560,278
第5計算期間	2018年12月18日～2019年12月16日	130,778,601	847,340,244	2,879,998,635
第6計算期間	2019年12月17日～2020年12月15日	125,147,537	706,185,539	2,298,960,633
第7計算期間	2020年12月16日～2021年12月15日	105,712,316	369,438,974	2,035,233,975
第8計算期間	2021年12月16日～2022年12月15日	85,411,137	167,801,978	1,952,843,134
第9計算期間	2022年12月16日～2023年12月15日	77,590,530	185,375,050	1,845,058,614
第10計算期間	2023年12月16日～2024年12月16日	62,760,977	240,885,215	1,666,934,376
第11計算期間	2024年12月17日～2025年12月15日	52,058,445	152,001,959	1,566,990,862

(注)本邦外における設定及び解約の実績はありません。

(参考情報)

## 運用実績

## SBIグローバル・ラップファンド(安定型)

## 基準価額・純資産の推移

(基準日:2025年12月30日)

(2015年12月30日～2025年12月30日)



※基準価額及び分配金再投資基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。  
 ※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しています。

基準価額(1万口当たり)	15,259円
純資産総額	10.28億円

## 分配の推移(1万口当たり、税引前)

決算期	金額
第7期(2021年12月15日)	0円
第8期(2022年12月15日)	0円
第9期(2023年12月15日)	0円
第10期(2024年12月16日)	0円
第11期(2025年12月15日)	0円
設定来累計	0円

## 主要な資産の状況

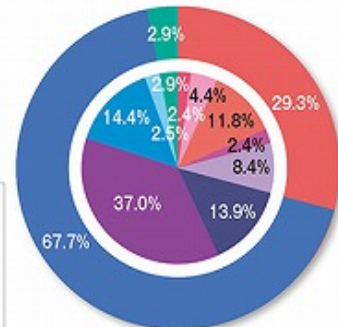
※比率は本ファンドの純資産総額に対する比率を表示しています。  
 ※比率は表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

## 《構成比率》

投資信託証券	97.1%
現金等	2.9%
合計	100.0%

## 《資産別構成比率》

株式型資産	先進国(除く米国)大型株式
日本大型株式	新興国株式
米国大型株式	コモディティ(金)
債券型資産	
日本債券	グローバル債券
先進国(除く米国)債券	
新興国債券	
現金	



## 《組入上位銘柄》

	投資対象ファンドの名称	比率	投資対象資産	通貨
1	ビムコ・バミューダ・インカムファンドA クラスX(JPY)	37.0%	グローバル債券	円
2	ハンガード・トータル・インターナショナル債券ETF(米ドルヘッジあり)	14.4%	先進国(除く米国)債券	米ドル
3	NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI総合連動型上場投信	13.9%	日本債券	円
4	シュワブ・米国大型株グロース・ETF	11.8%	米国大型株式	米ドル
5	SPDR ゴールド・ミニシェアーズ・トラスト	8.4%	コモディティ(金)	米ドル
6	SPDR ポートフォリオ先進国株式(除く米国)ETF <sup>*1</sup>	4.4%	先進国(除く米国)大型株式	米ドル
7	ハンガード・米ドル建て 新興国政府債券ETF	2.5%	新興国債券	米ドル
8	SPDR ポートフォリオ・新興国株式 ETF <sup>*2</sup>	2.4%	新興国株式	米ドル
9	iシェアーズ・コア TOPIX ETF	2.4%	日本大型株式	円

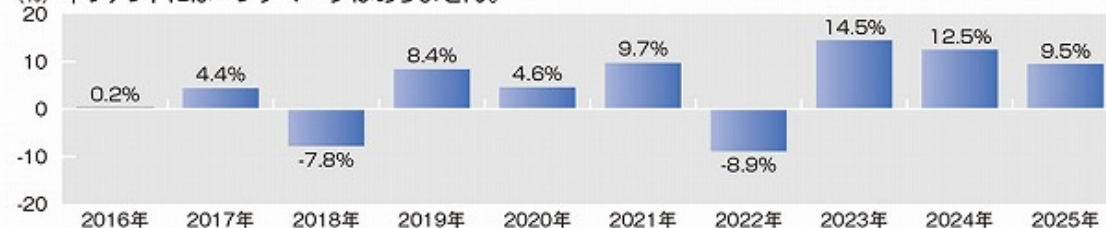
※基準日(2025年12月30日)の状況です。直近の基本投資割合はP2、投資対象ファンドはP11、P12に記載しています。

\*1 SPDR ポートフォリオ先進国株式(除く米国)ETFは、2026年1月31日付で、State Street SPDR ポートフォリオ先進国株式(除く米国)ETFへ名称変更されました。

\*2 SPDR ポートフォリオ・新興国株式ETFは、2026年1月31日付で、State Street SPDR ポートフォリオ 新興国株式 ETFへ名称変更されました。

## 年間収益率の推移(暦年ベース)

(%) 本ファンドにはベンチマークはありません。



※ファンドの年間収益率は、分配金再投資基準価額の騰落率です。

最新の運用実績は、委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

# 運用実績

## SBIグローバル・ラップファンド(積極型)

### 基準価額・純資産の推移

(基準日:2025年12月30日)

(2015年12月30日~2025年12月30日)



※基準価額及び分配金再投資基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しています。

基準価額(1万口当たり)	23,014円
純資産総額	35.80億円

### 分配の推移(1万口当たり、税引前)

決算期	金額
第7期(2021年12月15日)	0円
第8期(2022年12月15日)	0円
第9期(2023年12月15日)	0円
第10期(2024年12月16日)	0円
第11期(2025年12月15日)	0円
設定来累計	0円

### 主要な資産の状況

※比率は本ファンドの純資産総額に対する比率を表示しています。

※比率は表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

#### 《構成比率》

投資信託証券	95.9%
現金等	4.1%
合計	100.0%

#### 《資産別構成比率》



#### 《組入上位10銘柄》

順位	投資対象ファンドの名称	比率	投資対象資産	通貨
1	シュワブ・米国大型株グロース・ETF	24.3%	米国大型株式	米ドル
2	SPDR ポートフォリオ先進国株式(除く米国)ETF*1	14.4%	先進国(除く米国)大型株式	米ドル
3	ビムコ・バリュー・インカムファンドA クラスX(JPY)	11.5%	グローバル債券	円
4	SPDR ゴールド・ミニシェアーズ・トラスト	8.7%	コモディティ(金)	米ドル
5	ハンガード・トータル・インターナショナル債券ETF(米ドルヘッジあり)	7.5%	先進国(除く米国)債券	米ドル
6	ハンガード・ミッドキャップ・グロースETF	4.8%	米国中小型株式	米ドル
7	フランクリン・FTSE ユーロゾーン ETF	4.8%	欧州中小型株式	米ドル
8	One ETF 高配当日本株	4.8%	日本中小型株式	円
9	iシェアーズ・コア TOPIX ETF	4.7%	日本大型株式	円
10	State Street 不動産セレクト・セクター SPDR ETF*2	3.3%	リート	米ドル

※基準日(2025年12月30日)の状況です。直近の基本投資割合はP2、投資対象ファンドはP11、P12に記載しています。

\*1 SPDR ポートフォリオ先進国株式(除く米国)ETFは、2026年1月31日付で、State Street SPDR ポートフォリオ先進国株式(除く米国)ETFへ名称変更されました。

\*2 当ファンドは、2025年12月1日付で、不動産セレクト・セクター SPDRファンドより名称変更されました。

### 年間収益率の推移(暦年ベース)

(%) 本ファンドにはベンチマークはありません。



※ファンドの年間収益率は、分配金再投資基準価額の騰落率です。

最新の運用実績は、委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

## （参考情報）ファンドの総経費率

直近の運用報告書の作成対象期間は2024年12月17日～2025年12月15日です。

<SBIグローバル・ラップファンド(安定型)>

総経費率 (①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
1.78%	1.38%	0.40%

<SBIグローバル・ラップファンド(積極型)>

総経費率 (①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
1.56%	1.38%	0.18%

※対象期間中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した値(年率)です。

※その他費用には、投資先ファンド(ファンドが組入れている投資信託証券)にかかる費用が含まれています。

※投資先ファンドの費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費用の比率を乗じて算出した概算値です。なお、投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除いています。

※各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

※投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

※これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

※詳細につきましては、対象期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

#### ( )お申込日

毎営業日お申込いただけます。

原則として、営業日の午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込みとします。

上記時間を過ぎての受付は、翌営業日の取扱いとなります。

ただし、各ファンドとも取得申込日当日が以下に該当する場合にはお申込みの受付を行いません。

- ・ニューヨークの証券取引所の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・シカゴマーカンタイル取引所の休業日
- ・ニューヨークの商業銀行の休業日
- ・ロンドンの商業銀行の休業日

詳しくは販売会社へお問い合わせください。なお、下記照会先においてもご確認いただけます。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社

電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.sbi-am.co.jp/>

#### ( )お申込単位

お申込単位は、各販売会社が定めるものとします。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。なお、上記( )に記載の照会先においてもご確認いただけます。

#### ( )お申込価額

取得申込受付日の翌営業日に算出される基準価額とします。

#### ( )お申込手数料

通常のお申込み

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.3%（税抜3.0%）を上限として販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額とします。

お申込手数料は、販売会社によって異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。

なお、上記( )の照会先においてもご確認いただけます。

（注）申込手数料とは、購入時の商品説明、情報提供及び事務手続き等にかかる対価のことをいいます。

確定拠出年金制度に基づくお申込み

申込手数料はかかりません。

本ファンドの受益権は、振替制度の適用を受けており、取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権につ

いては追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

上記にかかわらず、委託会社は、取得申込者の取得申込総額が多額な場合、投資信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、または金融商品取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所及び金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。なお、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があります。取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場ないしは当該市場を開設するものを「証券取引所」という場合があります。）等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、販売会社は、受益権の取得申込みの受付を中止すること、及びすでに受付けた取得申込みを取消することができます。

なお、取得申込みの受付が中止または取消された場合には、受益者は当該受付中止または取消し以前に行った当日の取得申込みを撤回できます。ただし、受益者がその取得申込みを撤回しない場合には、当該受益権の取得の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に取得申込みを受付けたものとし、上記の規定に準じて算出した価額とします。

## 2【換金（解約）手続等】

### a. 換金の受付

毎営業日お申込みいただけます。

原則として営業日の午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込みとします。

上記時間を過ぎての受付は、翌営業日のお取扱いとなります。

ただし、各ファンドとも取得申込日当日が以下に該当する場合にはお申込みの受付を行いません。

- ・ニューヨークの証券取引所の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・シカゴマーカンタイル取引所の休業日
- ・ニューヨークの商業銀行の休業日
- ・ロンドンの商業銀行の休業日

詳しくは販売会社へお問い合わせください。なお、下記照会先においてもご確認いただけます。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社

電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.sbiam.co.jp/>

### b. 換金単位

最低単位を1円単位または1口単位として、販売会社が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

換金単位は販売会社により異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。

なお、上記に記載の照会先においてもご確認いただけます。

### c. 換金価額

解約請求受付日の翌営業日に算出される基準価額から信託財産留保額（基準価額に対し0.1%）を控除した価額となります。

換金手数料はありません。基準価額については、上記a.の照会先においてもご確認いただけます。

（注）信託財産留保額とは、換金に伴う有価証券売買委託手数料等の費用のことをいいます。

### d. 換金代金のお支払い

原則として、換金代金は、受益者の一部解約の実行の請求を受付けた日から起算して7営業日目からお支払いします。

## e. その他

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約または換金の請求金額が多額となる場合には制限を設ける場合があります。

上記にかかわらず、委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止すること及びすでに受付けた一部解約の実行の請求の受付を取消することができます。

なお、一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者が当該一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の解約請求受付期間に一部解約の実行の請求を受付けたものとし、上記の規定に準じて計算された価額とします。

## 3【資産管理等の概要】

## (1)【資産の評価】

## ( ) 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令及び一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。ただし、便宜上1万口当たりで表示されます。

## ( ) 主な投資対象資産の評価方法

ETF（上場投資信託証券）	原則として、基準価額計算日の金融商品取引所における最終相場で評価します。
外貨建資産	原則として、基準価額計算日の対顧客電信売買相場の仲値で円換算を行います。
為替予約取引	原則として、基準価額計算日の対顧客先物売買相場の仲値で評価します。

外国で取引されているものについては、計算時に知り得る直近の日

## ( ) 基準価額の算出頻度・照会方法等

本ファンドの基準価額は毎営業日算出されます。最新の基準価額（1万口当たり）は最寄りの取扱販売会社にお問い合わせいただければ、いつでもお知らせいたします。また、日本経済新聞にも原則として計算日の翌日付の朝刊に基準価額（1万口当たり）が掲載されています。なお、下記照会先においてもご確認いただけます。

委託会社における照会先：

<p>SBIアセットマネジメント株式会社            電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）            ホームページ <a href="https://www.sbi-am.co.jp/">https://www.sbi-am.co.jp/</a></p>
--

## (2)【保管】

本ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まるため、原則として受益証券は発行されません。したがって、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

## (3)【信託期間】

本ファンドの信託期間は2014年12月11日から開始し、原則として無期限です。

ただし、後記の「(5)その他」の規定等によりファンドを償還させることがあります。

#### (4)【計算期間】

この信託の計算期間は、毎年12月16日から翌年12月15日までとすることを原則とします。各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日は翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

#### (5)【その他】

##### ( )信託の終了

委託会社は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合、またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。

委託会社は、前記の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。

前記の書面決議において、受益者(委託会社及びこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

前記の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行います。

前記からまでの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状況に照らし真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記からまでに規定する手続きを行うことが困難な場合にも適用しません。

##### ( ) その他の事由による信託の終了

委託会社は、監督官庁より、この信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは委託会社は、この信託契約を解約し信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、下記「( )約款変更」の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

受託会社が辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

##### ( ) 約款変更

委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図

型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨及びその内容を監督官庁に届出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

委託会社は、前記の事項（前記の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、前項の併合にあつては、投資信託及び投資法人に関する法律施行規則第29条の2に規定する「軽微な併合」を除きます。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日及びその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。

前記の書面決議において、受益者は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使用することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

前記の書面決議は議決権が行使できる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

前記からまでの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

前記からの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる1つまたは複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

#### ( ) 公告

委託会社が受益者に対して行う公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.sbi-am.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日刊工業新聞に掲載します。

#### ( ) 反対受益者の受益権買取請求の不適用

この信託は、受益者が第38条の規定による一部解約請求を行なったときは、委託者が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、第39条に規定する信託契約の解約または前条に規定する重大な信託約款の変更等を行なう場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

#### ( ) 運用報告書の作成

本ファンドは、毎計算期末（毎年12月15日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。）及び信託終了時に期中の運用経過、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の請求があった場合には、これを交付します。

#### ( ) 関係法人との契約の更改

##### 募集・販売契約

委託会社と販売会社との間の募集・販売契約は、当事者の別段の意思表示のない限り、1年ごとに自動的に更新されます。募集・販売契約は、当事者間の合意により変更することができます。

#### 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

( )収益分配金・償還金の請求権

受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を所有する受益権の口数に応じて委託会社に請求する権利を有します。収益分配金の請求権は支払開始日から5年間、償還金の請求権は支払開始日から10年間その支払いを請求しないときはその権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

(注)本ファンドの受益権は、振替制度の適用を受けており、その場合の分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払いを開始します。

( )換金請求権

受益者は、保有する受益権について販売会社に換金を請求する権利を有します。

( )帳簿閲覧権

受益者は委託会社に対し、その営業時間内に本ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧・謄写を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

- 1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- 2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第11期計算期間（2024年12月17日から2025年12月15日まで）の財務諸表について、監査法人ナカチによる監査を受けております。

## 1【財務諸表】

## 【SBIグローバル・ラップファンド（安定型）】

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第10期 2024年12月16日現在	第11期 2025年12月15日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	1,579,781	1,654,547
コール・ローン	16,806,191	21,459,771
投資信託受益証券	1,022,317,684	1,016,371,632
未収入金	996,978	-
未収利息	48	205
流動資産合計	1,041,700,682	1,039,486,155
資産合計	1,041,700,682	1,039,486,155
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	6,010,050	-
未払解約金	2,518,146	3,582,054
未払受託者報酬	139,651	138,685
未払委託者報酬	6,842,898	6,795,293
その他未払費用	511,995	511,995
流動負債合計	16,022,740	11,028,027
負債合計	16,022,740	11,028,027
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	738,751,193	677,238,501
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	286,926,749	351,219,627
（分配準備積立金）	267,610,642	321,451,977
元本等合計	1,025,677,942	1,028,458,128
純資産合計	1,025,677,942	1,028,458,128
負債純資産合計	1,041,700,682	1,039,486,155

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第10期		第11期	
	自 2023年12月16日	至 2024年12月16日	自 2024年12月17日	至 2025年12月15日
営業収益				
受取配当金	9,907,726		11,022,113	
受取利息	59,789		139,721	
有価証券売買等損益	91,570,127		91,627,258	
為替差損益	36,271,664		2,401,127	
営業収益合計	137,809,306		105,190,219	
営業費用				
支払利息	7,312		-	
受託者報酬	280,455		275,742	
委託者報酬	13,742,382		13,510,923	
その他費用	1,423,965		1,428,295	
営業費用合計	15,454,114		15,214,960	
営業利益又は営業損失（ ）	122,355,192		89,975,259	
経常利益又は経常損失（ ）	122,355,192		89,975,259	
当期純利益又は当期純損失（ ）	122,355,192		89,975,259	
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部 解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	7,940,031		2,729,597	
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	186,631,113		286,926,749	
剰余金増加額又は欠損金減少額	9,781,317		13,822,172	
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金 減少額	-		-	
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金 減少額	9,781,317		13,822,172	
剰余金減少額又は欠損金増加額	23,900,842		36,774,956	
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	23,900,842		36,774,956	
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	-		-	
分配金	-		-	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	286,926,749		351,219,627	

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 投資信託受益証券（ETF） 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場で評価しております。
2.デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として計算期間末日において予約為替の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。
3.外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則としてわが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
4.収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として投資信託受益証券の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上し、入金金額との差額については入金時に計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 為替差損益 約定日基準で計上しております。
5.その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 外貨建資産等については、原則として計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨に換算するほか、「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に従って換算しております。 ファンドの計算期間 当ファンドの計算期間は原則として、毎年12月16日から翌年12月15日までとしておりますが、前計算期間末日が休業日のため、当計算期間は2024年12月17日から2025年12月15日までとなっております。

## (貸借対照表に関する注記)

項目	第10期 2024年12月16日現在	第11期 2025年12月15日現在
1. 当該計算期間の末日における受益権の総数	738,751,193口	677,238,501口
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額	-	-
3. 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.3884円 (13,884円)	1.5186円 (15,186円)

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日			第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日		
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程		
項目			項目		
費用控除後の配当等 収益額	A	8,279,740円	費用控除後の配当 等収益額	A	9,393,449円
費用控除後・繰越欠 損金補填後の有価証 券売買等損益額	B	106,135,421円	費用控除後・繰越 欠損金補填後の有 価証券売買等損益 額	B	77,852,213円
収益調整金額	C	20,618,457円	収益調整金額	C	30,188,010円
分配準備積立金額	D	153,195,481円	分配準備積立金額	D	234,206,315円
当ファンドの分配対 象収益額	E=A+B+C+D	288,229,099円	当ファンドの分配 対象収益額	E=A+B+C+D	351,639,987円
当ファンドの期末残 存口数	F	738,751,193口	当ファンドの期末 残存口数	F	677,238,501口
10,000口当たり収益 分配対象額	$G=E/F \times$ 10,000	3,901円	10,000口当たり収 益分配対象額	$G=E/F \times$ 10,000	5,192円
10,000口当たり分配 金額	H	-円	10,000口当たり分 配金額	H	-円
収益分配金金額	$I=F \times$ H/10,000	-円	収益分配金金額	$I=F \times$ H/10,000	-円

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

項目	第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク、為替変動リスク、ントリーリスク等にさらされております。	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券及びデリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク、為替変動リスク、金利変動リスク、ントリーリスク等にさらされております。また、当ファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であります。原則として外貨の送金又は将来の為替変動リスクの回避目的に利用します。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	<p>常勤取締役、最高運用責任者、リスク管理部長、商品企画部長、マーケティング部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成するリスク管理委員会にて、ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行い、運用者の意思決定方向を調整・相互確認しております。</p> <p><b>市場リスクの管理</b> 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>	<p>同左</p> <p><b>市場リスクの管理</b> 同左</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 同左</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 同左</p>

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第10期 2024年12月16日現在	第11期 2025年12月15日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品は、短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	投資信託受益証券 同左 上記以外の金融商品
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日
	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
投資信託受益証券	73,834,852	81,653,953
合計	73,834,852	81,653,953

## (デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

## 元本の移動

項目	第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日
投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	811,659,073円	738,751,193円
期中追加設定元本額	30,904,785円	33,436,610円
期中一部解約元本額	103,812,665円	94,949,302円

## (4) 【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	ISHARES CORE TOPIX ETF	74,300	26,361,640	
		NEXT FUNDS JP BD NOMURA - BPI	163,030	137,711,441	
		PIMCO Bermuda Income Fund AX	30,601.33	370,184,289	
日本円小計			267,931.33	534,257,370	
投資信託 受益証券	アメリカドル	SCHWAB U.S. LARGE-CAP GROWTH	25,018	813,085.00	
		SPDR GOLD MINISHARES TRUST	7,699	655,184.90	
		SPDR PORTFOLIO DEVELOPED WORLD EX-US ETF	6,891	306,787.32	
		SPDR PORTFOLIO S&P EMERGING MARKETS ETF	3,494	163,658.96	
		VANGUARD EMERGING MARKETS GOVERNMENT BOND ETF	2,497	168,547.50	
		VANGUARD TOTAL INTL BOND ETF	19,980	982,816.20	
アメリカドル小計			65,579	3,090,079.88 (482,114,262)	
合計				1,016,371,632 (482,114,262)	

(注1) 券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

(注2) 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注3) 合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

## 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入時価比率	合計金額に対する比率
アメリカドル	投資信託受益証券 6銘柄	46.88%	47.43%

(注) 「組入時価比率」とは、純資産総額に対する比率であります。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 第4 その他特定資産の明細表

該当事項はありません。

## 【SBIグローバル・ラップファンド（積極型）】

## （１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第10期 2024年12月16日現在	第11期 2025年12月15日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	5,170,536	5,561,539
コール・ローン	63,936,670	99,991,672
投資信託受益証券	3,187,229,122	3,510,947,779
未収入金	1,996,785	-
未収利息	183	958
流動資産合計	3,258,333,296	3,616,501,948
資産合計	3,258,333,296	3,616,501,948
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	8,014,970	-
未払解約金	14,120,029	21,598,016
未払受託者報酬	428,874	462,434
未払委託者報酬	21,014,683	22,659,089
その他未払費用	511,995	511,995
流動負債合計	44,090,551	45,231,534
負債合計	44,090,551	45,231,534
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,666,934,376	1,566,990,862
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,547,308,369	2,004,279,552
（分配準備積立金）	1,405,641,334	1,823,982,621
元本等合計	3,214,242,745	3,571,270,414
純資産合計	3,214,242,745	3,571,270,414
負債純資産合計	3,258,333,296	3,616,501,948

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日
営業収益		
受取配当金	44,780,277	49,079,121
受取利息	287,425	605,517
有価証券売買等損益	479,862,910	530,537,081
為替差損益	160,884,242	23,342,711
営業収益合計	685,814,854	603,564,430
営業費用		
支払利息	27,095	-
受託者報酬	847,567	884,367
委託者報酬	41,530,472	43,333,843
その他費用	1,637,535	1,635,966
営業費用合計	44,042,669	45,854,176
営業利益又は営業損失（ ）	641,772,185	557,710,254
経常利益又は経常損失（ ）	641,772,185	557,710,254
当期純利益又は当期純損失（ ）	641,772,185	557,710,254
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部 解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	40,802,652	13,243,846
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	1,034,011,206	1,547,308,369
剰余金増加額又は欠損金減少額	47,612,810	53,423,889
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金 減少額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金 減少額	47,612,810	53,423,889
剰余金減少額又は欠損金増加額	135,285,180	140,919,114
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	135,285,180	140,919,114
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	-	-
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,547,308,369	2,004,279,552

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 投資信託受益証券（ETF） 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場で評価しております。
2.デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として計算期間末日において予約為替の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。
3.外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則としてわが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
4.収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として投資信託受益証券の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上し、入金金額との差額については入金時に計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 為替差損益 約定日基準で計上しております。
5.その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 外貨建資産等については、原則として計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨に換算するほか、「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に従って換算しております。 ファンドの計算期間 当ファンドの計算期間は原則として、毎年12月16日から翌年12月15日までとしておりますが、前計算期間末日が休業日のため、当計算期間は2024年12月17日から2025年12月15日までとなっております。

## (貸借対照表に関する注記)

項目	第10期 2024年12月16日現在	第11期 2025年12月15日現在
1. 当該計算期間の末日における受益権の総数	1,666,934,376口	1,566,990,862口
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額	-	-
3. 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.9282円 (19,282円)	2.2791円 (22,791円)

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日			第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日		
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	39,444,364円	費用控除後の配当等収益額	A	44,855,537円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	561,525,169円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	499,610,871円
収益調整金額	C	141,667,035円	収益調整金額	C	180,296,931円
分配準備積立金額	D	804,671,801円	分配準備積立金額	D	1,279,516,213円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	1,547,308,369円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,004,279,552円
当ファンドの期末残存口数	F	1,666,934,376口	当ファンドの期末残存口数	F	1,566,990,862口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	9,282円	10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	12,790円
10,000口当たり分配金額	H	-円	10,000口当たり分配金額	H	-円
収益分配金金額	$I=F \times H/10,000$	-円	収益分配金金額	$I=F \times H/10,000$	-円

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

項目	第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等にさらされております。	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券及びデリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク、為替変動リスク、金利変動リスク、カントリーリスク等にさらされております。また、当ファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であります。原則として外貨の送金又は将来の為替変動リスクの回避目的に利用します。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	<p>常勤取締役、最高運用責任者、リスク管理部長、商品企画部長、マーケティング部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成するリスク管理委員会にて、ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行い、運用者の意思決定方向を調整・相互確認しております。</p> <p><b>市場リスクの管理</b> 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>	<p>同左</p> <p><b>市場リスクの管理</b> 同左</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 同左</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 同左</p>

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第10期 2024年12月16日現在	第11期 2025年12月15日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品は、短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	投資信託受益証券 同左 上記以外の金融商品
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日
	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
投資信託受益証券	397,472,826	501,536,075
合計	397,472,826	501,536,075

## (デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (その他の注記)

## 元本の移動

項目	第10期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	第11期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日
投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	1,845,058,614円	1,666,934,376円
期中追加設定元本額	62,760,977円	52,058,445円
期中一部解約元本額	240,885,215円	152,001,959円

## (4) 【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	ISHARES CORE TOPIX ETF	498,450	176,850,060	
		One ETF 高配当日本株	4,437	176,060,160	
		NEXT FUNDS JP BD NOMURA - BPI	93,760	79,199,072	
		PIMCO Bermuda Income Fund AX	32,337.09	391,181,777	
日本円小計			628,984.09	823,291,069	
投資信託 受益証券	アメリカドル	FRANKLIN FTSE EUROZONE ETF	34,625	1,146,710.75	
		SCHWAB U.S. LARGE-CAP GROWTH	173,709	5,645,542.50	
		SPDR GOLD MINISHARES TRUST	27,254	2,319,315.40	
		SPDR PORTFOLIO DEVELOPED WORLD EX-US ETF	77,171	3,435,652.92	
		SPDR PORTFOLIO S&P EMERGING MARKETS ETF	11,927	558,660.68	
		SS REAL ESTATE SELECT SECT SPDR	18,160	740,020.00	
		VANGUARD EMERGING MARKETS GOVERNMENT BOND ETF	8,248	556,740.00	
		VANGUARD MID-CAP GROWTH ETF	3,777	1,068,815.46	
		VANGUARD TOTAL INTL BOND ETF	35,676	1,754,902.44	
アメリカドル小計			390,547	17,226,360.15 (2,687,656,710)	
合計				3,510,947,779 (2,687,656,710)	

(注1)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

(注2)通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注3)合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

## 外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入時価比率	合計金額に対する比率
アメリカドル	投資信託受益証券 9銘柄	75.26%	76.55%

(注)「組入時価比率」とは、純資産総額に対する比率であります。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 第4 その他特定資産の明細表

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

・ SBIグローバル・ラップファンド（安定型）

2025年12月30日現在

資産総額	1,030,037,650円
負債総額	1,680,888円
純資産総額（ - ）	1,028,356,762円
発行済口数	673,931,550口
1口当たり純資産額（ / ）	1.5259円
（1万口当たり純資産額）	（15,259円）

・ SBIグローバル・ラップファンド（積極型）

2025年12月30日現在

資産総額	3,588,390,579円
負債総額	8,115,422円
純資産総額（ - ）	3,580,275,157円
発行済口数	1,555,722,849口
1口当たり純資産額（ / ）	2.3014円
（1万口当たり純資産額）	（23,014円）

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料  
該当事項はありません。

(2) 受益者に対する特典  
該当事項はありません。

(3) 受益権の譲渡

受益権の譲渡制限は設けておりません。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとし、

前記の申請のある場合には、振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少及び譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとし、ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとし、

前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(4) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社及び受託会社に対抗することができません。

(5) 受益権の再分割

委託会社は受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払います。

(7) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金及び償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

## 第三部 【委託会社等の情報】

### 第1 【委託会社等の概況】

#### 1 【委託会社等の概況】

資本金の額(2025年12月末日現在)

- ( ) 資本金の額  
委託会社の資本金の額は金4億20万円です。
- ( ) 発行する株式の総数  
委託会社の発行する株式の総数は146万4,000株です。
- ( ) 発行済株式の総数  
委託会社がこれまでに発行した株式の総数は1,408,348株です。
- (iv) 最近5年間ににおける主な資本金の額の増減  
2022年1月31日に資本金を10億5,020万円に増資しました。  
2022年3月23日に資本金を4億20万円に減資しました。  
2023年4月1日に吸収合併に係る資本金4億9,500万円を引き継ぎ、  
同日に同額を減資しました。

委託会社の機構

- (i) 会社の意思決定機構  
経営の意思決定機関として取締役会をおきます。取締役会は、委託会社の業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務を監督します。代表取締役である社長は、委託会社を代表し、全般の業務執行について指揮統括します。取締役は、委嘱された業務の執行にあたり、また、社長に事故有るときにその職務を代行します。委託会社の一切の活動における法令遵守に関して管理監督する機関としてコンプライアンス委員会をおきます。コンプライアンス委員会は、委託会社が法律上・規制上の一切の要件と社内の方針とを遵守するという目的に関し、法律により許可されているすべての権限を行使することができます。監査役は、委託会社の会計監査及び業務監査を行います。
- ( ) 投資運用の意思決定機構
  - ア) 市場環境分析・企業分析  
ファンドマネジャー、アナリストによる市場環境、業種、個別企業などの調査・分析及び基本投資戦略の協議・策定を行います。
  - イ) 投資基本方針の策定  
最高運用責任者のもとで開催される「運用会議」において、市場動向・投資行動・市場見通し・投資方針等を策定します。
  - ウ) 運用基本方針の決定  
「運用会議」の策定内容を踏まえ、常勤取締役、最高運用責任者、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成される「投資戦略委員会」において運用の基本方針が決定されます。
  - エ) 投資銘柄の策定、ポートフォリオの構築  
ファンドマネジャーは、この運用の基本方針に沿って、各ファンドの運用計画書を策定し、最高運用責任者の承認後、売買の指図を行います。ただし、未公開株及び組合への投資を行う場合は、それぞれ「未公開株投資委員会」、「組合投資委員会」での承認後、売買の指図等を行います。
  - オ) パフォーマンス分析、リスク分析・評価  
ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行い、運用方針の確認・見直しを行います。  
上記体制は、今後、変更となる場合があります。

## 2 【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用(投資運用業)を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資一任契約に係る業務(投資運用業)、投資助言業務(投資助言・代理業)及び第二種金融商品取引業に係る業務の一部を行っています。

2025年12月末日現在、委託会社が運用を行っている投資信託(マザーファンドは除きます)は以下の通りです。

(2025年12月末日現在)

ファンドの種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	278	5,936,953
単位型株式投資信託	507	1,625,044
単位型公社債投資信託	64	114,207
合計	849	7,676,205

### 3【委託会社等の経理状況】

#### (1) 財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

委託会社であるSBIアセットマネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

#### (2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（自2024年4月1日至2025年3月31日）の財務諸表及び当事業年度の中間会計期間（自2025年4月1日至2025年9月30日）の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査及び中間監査を受けております。

## (1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	1,318,220	2,719,549
関係会社短期貸付金	2 4,500,000	2 4,700,000
前払費用	75,720	51,729
未収委託者報酬	1,476,224	1,604,874
未収運用受託報酬	2 20,429	2 12,096
その他	43,335	23,470
流動資産合計	7,433,929	9,111,721
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 26,047	1 31,251
器具備品	1 3,930	1 6,311
有形固定資産合計	29,977	37,563
無形固定資産		
商標権	1,860	1,798
ソフトウェア	194,084	148,358
その他	67	67
無形固定資産合計	196,011	150,224
投資その他の資産		
投資有価証券	746,394	562,202
関係会社株式	22,031	22,031
繰延税金資産	47,988	101,208
その他	41,782	41,638
投資その他の資産合計	858,197	727,081
固定資産合計	1,084,186	914,868
繰延資産		
株式交付費	1,632	247
繰延資産合計	1,632	247
資産合計	8,519,748	10,026,837

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	56,020	3,144
未払金	1,348,795	1,538,445
未払手数料	788,350	871,779
その他未払金	560,444	666,666
未払法人税等	162,014	372,480
未払消費税等		121,693
流動負債合計	1,566,829	2,035,762
負債合計	1,566,829	2,035,762
純資産の部		
株主資本		
資本金	400,200	400,200
資本剰余金		
その他資本剰余金	3,847,137	3,847,137
資本剰余金合計	3,847,137	3,847,137
利益剰余金		
利益準備金	100,050	100,050
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,586,857	3,700,640
利益剰余金合計	2,686,907	3,800,690
自己株式	63	63
株主資本合計	6,934,181	8,047,964
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	18,737	56,889
評価・換算差額等合計	18,737	56,889
純資産合計	6,952,919	7,991,074
負債純資産合計	8,519,748	10,026,837

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)	当事業年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)
営業収益		
委託者報酬	6,530,321	7,712,343
運用受託報酬	112,247	87,707
投資助言報酬	40	30
その他営業収益	17,987	52,942
営業収益計	1 6,660,596	1 7,853,023
営業費用		
支払手数料	3,002,489	3,707,166
広告宣伝費	1,071	818
調査費	279,089	309,226
委託計算費	657,400	810,126
営業雑経費	72,111	51,292
通信費	1,965	579
印刷費	57,926	35,297
協会費	12,004	15,228
諸会費	215	186
営業費用計	4,012,163	4,878,629
一般管理費		
給料	530,816	542,033
役員報酬	73,064	85,012
給料・手当	418,939	414,103
賞与	38,813	42,918
福利厚生費	85,313	87,575
交際費		62
寄付金	1,637	
旅費交通費	2,623	2,960
租税公課	40,582	73,543
不動産賃借料	40,413	36,892
退職給付費用	31,515	20,685
固定資産減価償却費	42,089	51,298
業務委託費	56,992	48,931
消耗品費	3,711	3,495
諸経費	2 637,135	2 624,648
一般管理費計	1,472,831	1,492,128
営業利益	1,175,602	1,482,265
営業外収益		
受取利息	2 53,147	2 75,764
受取配当金	1,250	
投資有価証券売却益	131,942	49,100
為替差益		1,324
雑収入	1,375	2,282
営業外収益計	187,715	128,471
営業外費用		
為替差損	1,040	
株式交付費償却	1,764	1,384
営業外費用計	2,805	1,384
経常利益	1,360,512	1,609,351
特別損失		
投資有価証券評価損		522

特別損失合計		522
税引前当期純利益	1,360,512	1,608,829
法人税、住民税及び事業税	326,163	513,811
法人税等調整額	94,943	18,764
法人税等合計	421,107	495,046
当期純利益	939,405	1,113,782

## (3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計		
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金				
当期首残高	400,200	3,352,137	3,352,137	100,050	853,521	953,571	63	4,705,845	
当期変動額									
合併による増加		495,000	495,000		793,930	793,930		1,288,930	
当期純利益					939,405	939,405		939,405	
株主資本以外 の項目の当期 変動額（純 額）									
当期変動額合計		495,000	495,000		1,733,335	1,733,335		2,228,335	
当期末残高	400,200	3,847,137	3,847,137	100,050	2,586,857	2,686,907	63	6,934,181	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	39,299	39,299	4,745,145
当期変動額			
合併による増加			1,288,930
当期純利益			939,405
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	20,562	20,562	20,562
当期変動額合計	20,562	20,562	2,207,773
当期末残高	18,737	18,737	6,952,919

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金				
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	400,200	3,847,137	3,847,137	100,050	2,586,857	2,686,907	63	6,934,181	
当期変動額									
当期純利益					1,113,782	1,113,782		1,113,782	
株主資本以外の 項目の当期 変動額（純 額）									
当期変動額合計					1,113,782	1,113,782		1,113,782	
当期末残高	400,200	3,847,137	3,847,137	100,050	3,700,640	3,800,690	63	8,047,964	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	18,737	18,737	6,952,919
当期変動額			
当期純利益			1,113,782
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	75,627	75,627	75,627
当期変動額合計	75,627	75,627	1,038,155
当期末残高	56,889	56,889	7,991,074

## 【注記事項】

## （重要な会計方針）

## 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

## (1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

## (2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

## 2. 固定資産の減価償却の方法

## 有形固定資産

主として定額法を採用しております。なお主な耐用年数は、建物が8-18年、器具備品が3-15年であります。

## 無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

## 3. 繰延資産の処理方法

## 株式交付費

3年間で均等償却しております。

## 4. 収益及び費用の計上基準

当社の事業である投資運用業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、以下のとおりであります。

**委託者報酬** 委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき公募・私募の投資信託財産の運用指図を行うことが主な履行義務の内容であり、運用期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資信託約款に定められた信託報酬として、ファンド設定以降、日々の純資産残高に一定の報酬率を乗じて算出された額が、当該ファンドの運用期間にわたり収益として認識されます。

**運用受託報酬** 運用受託報酬は、投資家である対象顧客と投資一任契約を締結し、資産の運用を行うことが主な履行義務の内容であり、運用期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資一任契約ごとに定められた運用対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、運用を受託した期間にわたり収益として認識されます。

**投資助言報酬** 投資助言報酬は、対象顧客と投資助言（顧問）契約を締結し、当該顧客の資産運用に係る助言を行うことが主な履行義務の内容であり、助言期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資助言（顧問）契約ごとに定められた助言対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、助言期間にわたり収益として認識されます。

## （会計方針の変更）

## （法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分に関する改正については、2022年改正会計基準第20 - 3項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。

なお、当該会計方針の変更による財務諸表に与える影響はありません。

## (貸借対照表関係)

前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)												
<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">12,573千円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">6,916千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">19,490千円</td> </tr> </table>	建物	12,573千円	器具備品	6,916千円	合計	19,490千円	<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">15,880千円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">8,036千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">23,916千円</td> </tr> </table>	建物	15,880千円	器具備品	8,036千円	合計	23,916千円
建物	12,573千円												
器具備品	6,916千円												
合計	19,490千円												
建物	15,880千円												
器具備品	8,036千円												
合計	23,916千円												
<p>2 関係会社との取引に基づいて発生した債権は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">関係会社短期貸付金</td> <td style="text-align: right;">4,500,000千円</td> </tr> <tr> <td>その他流動資産</td> <td style="text-align: right;">954千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">4,500,954千円</td> </tr> </table>	関係会社短期貸付金	4,500,000千円	その他流動資産	954千円	合計	4,500,954千円	<p>2 関係会社との取引に基づいて発生した債権は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">関係会社短期貸付金</td> <td style="text-align: right;">4,700,000千円</td> </tr> <tr> <td>その他流動資産</td> <td style="text-align: right;">772千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">4,700,772千円</td> </tr> </table>	関係会社短期貸付金	4,700,000千円	その他流動資産	772千円	合計	4,700,772千円
関係会社短期貸付金	4,500,000千円												
その他流動資産	954千円												
合計	4,500,954千円												
関係会社短期貸付金	4,700,000千円												
その他流動資産	772千円												
合計	4,700,772千円												

## (損益計算書関係)

- 1 顧客との契約から生じる収益  
営業収益は全て顧客との契約から生じる収益であり、その他の収益に該当するものはありません。
- 2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">経営管理報酬</td> <td style="text-align: right;">607,052千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社からの受取利息</td> <td style="text-align: right;">48,341千円</td> </tr> </table>	経営管理報酬	607,052千円	関係会社からの受取利息	48,341千円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">経営管理報酬</td> <td style="text-align: right;">597,599千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社からの受取利息</td> <td style="text-align: right;">67,395千円</td> </tr> </table>	経営管理報酬	597,599千円	関係会社からの受取利息	67,395千円
経営管理報酬	607,052千円								
関係会社からの受取利息	48,341千円								
経営管理報酬	597,599千円								
関係会社からの受取利息	67,395千円								

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	1,099,411	308,937		1,408,348

(注) 2023年4月1日を効力発生とする吸収合併に伴い、結合当事企業の既存株主に対し、存続会社である当社普通株式の割当交付を行ったことにより、308,937株増加しております。

## 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	18			18

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	1,408,348			1,408,348

## 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	18			18

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

## （金融商品関係）

## 1．金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、自らが運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を投資有価証券として保有しております。デリバティブ取引については、保有する特定の投資有価証券の価格変動リスクを低減させる目的で利用し、投機的な取引は行わない方針であります。その他、一時的な余剰資金の運用については短期的な預金等に限定しております。なお、事業及び設備投資に必要な自己資金を有しているため、外部からの資金調達の計画はありません。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、これらの債権は、受託銀行にて分別管理されている信託財産及び年金資産より生じる信託報酬債権であり、その信用リスクは軽微であります。投資有価証券はファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。このほか、親会社に対し短期貸付を行っております。

営業債務である未払手数料等は、1年以内の支払期日であります。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については経理規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理しております。

市場リスク（価格、為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に基準価額を把握することにより管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2．金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、「現金・預金」「関係会社短期貸付金」「未収委託者報酬」「未収運用受託報酬」「未払金」は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前事業年度（2024年3月31日）

	貸借対照表 計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
投資有価証券	746,394	746,394	
資産計	746,394	746,394	

(注1) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前事業年度 貸借対照表計上額 (千円)
関係会社株式 子会社株式	22,031

当事業年度（2025年3月31日）

	貸借対照表 計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
投資有価証券	562,202	562,202	
資産計	562,202	562,202	

(注1) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当事業年度 貸借対照表計上額 (千円)
関係会社株式 子会社株式	22,031

(注2) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額  
前事業年度（2024年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	1,318,220			
関係会社短期貸付金	4,500,000			
未収委託者報酬	1,476,224			
未収運用受託報酬	20,429			
合計	7,314,874			

当事業年度（2025年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	2,719,549			
関係会社短期貸付金	4,700,000			
未収委託者報酬	1,604,874			
未収運用受託報酬	12,096			
合計	9,036,520			

## 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

前事業年度（2024年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 投資信託		746,394		746,394
資産計		746,394		746,394

当事業年度（2025年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 投資信託		562,202		562,202
資産計		562,202		562,202

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

前事業年度（2024年3月31日）

投資信託

市場における取引価格が存在せず、かつ、解約等に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないことから、基準価額を時価としており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

当事業年度(2025年3月31日)

投資信託

市場における取引価格が存在せず、かつ、解約等に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないことから、基準価額を時価としており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

## （有価証券関係）

## 1. 子会社株式

前事業年度(2024年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	貸借対照表計上額 (千円)
子会社株式	22,031

当事業年度(2025年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	貸借対照表計上額 (千円)
子会社株式	22,031

## 2. その他有価証券

前事業年度(2024年3月31日)

(単位：千円)

区分		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	127,373	78,187	49,186
	小計	127,373	78,187	49,186
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	619,020	641,200	22,179
	小計	619,020	641,200	22,179
合計		746,394	719,387	27,007

(注)表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

当事業年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

区分		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	2,944	2,077	867
	小計	2,944	2,077	867
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	559,258	643,200	83,941
	小計	559,258	643,200	83,941
合計		562,202	645,277	83,074

(注)表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

## 3. 売却したその他有価証券

前事業年度(2024年3月31日)

(単位：千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1)株式			
(2)債券			
(3)その他	682,102	131,942	
合計	682,102	131,942	

当事業年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1)株式			
(2)債券			
(3)その他	125,687	49,100	
合計	125,687	49,100	

## 4. 減損処理を行ったその他有価証券

当事業年度において、投資有価証券（その他有価証券の投資信託）について522千円の減損処理を行っております。なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型年金制度を採用しております。このほか、グループ会社との出向者の取り扱いに関する協定書に基づき、グループ会社に支払った金額を退職給付費用として計上しております。当該金額は、前事業年度（自2023年4月1日至2024年3月31日）23,640千円、当事業年度（自2024年4月1日至2025年3月31日）12,280千円であります。

## 2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度（自2023年4月1日至2024年3月31日）7,875千円、当事業年度（自2024年4月1日至2025年3月31日）8,404千円であります。

## (税効果会計関係)

前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)																																																																		
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>電話加入権</td><td style="text-align: right;">714千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">12,489</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">6,662</td></tr> <tr><td>その他未払税金</td><td style="text-align: right;">6,300</td></tr> <tr><td>未払金</td><td style="text-align: right;">29,896</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">195</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">56,258</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">56,258</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">8,269</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">8,269</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">47,988</td></tr> </table>	電話加入権	714千円	投資有価証券評価損	12,489	未払事業税	6,662	その他未払税金	6,300	未払金	29,896	その他	195	<hr/>		繰延税金資産小計	56,258	評価性引当額		<hr/>		繰延税金資産合計	56,258	その他有価証券評価差額金	8,269	<hr/>		繰延税金負債合計	8,269	<hr/>		繰延税金資産の純額	47,988	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>電話加入権</td><td style="text-align: right;">735千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">164</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">12,733</td></tr> <tr><td>その他未払税金</td><td style="text-align: right;">7,367</td></tr> <tr><td>未払金</td><td style="text-align: right;">53,911</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">26,197</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">97</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">101,208</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">101,208</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>-</td><td style="text-align: right;">-</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">-</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">101,208</td></tr> </table>	電話加入権	735千円	投資有価証券評価損	164	未払事業税	12,733	その他未払税金	7,367	未払金	53,911	その他有価証券評価差額金	26,197	その他	97	<hr/>		繰延税金資産小計	101,208	評価性引当額		<hr/>		繰延税金資産合計	101,208	-	-	<hr/>		繰延税金負債合計	-	<hr/>		繰延税金資産の純額	101,208
電話加入権	714千円																																																																		
投資有価証券評価損	12,489																																																																		
未払事業税	6,662																																																																		
その他未払税金	6,300																																																																		
未払金	29,896																																																																		
その他	195																																																																		
<hr/>																																																																			
繰延税金資産小計	56,258																																																																		
評価性引当額																																																																			
<hr/>																																																																			
繰延税金資産合計	56,258																																																																		
その他有価証券評価差額金	8,269																																																																		
<hr/>																																																																			
繰延税金負債合計	8,269																																																																		
<hr/>																																																																			
繰延税金資産の純額	47,988																																																																		
電話加入権	735千円																																																																		
投資有価証券評価損	164																																																																		
未払事業税	12,733																																																																		
その他未払税金	7,367																																																																		
未払金	53,911																																																																		
その他有価証券評価差額金	26,197																																																																		
その他	97																																																																		
<hr/>																																																																			
繰延税金資産小計	101,208																																																																		
評価性引当額																																																																			
<hr/>																																																																			
繰延税金資産合計	101,208																																																																		
-	-																																																																		
<hr/>																																																																			
繰延税金負債合計	-																																																																		
<hr/>																																																																			
繰延税金資産の純額	101,208																																																																		
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正</p> <p>「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。</p> <p>これに伴い、2026年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。</p> <p>この変更により、当事業年度の繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は773千円増加し、法人税等調整額は25千円、その他有価証券評価差額金は747千円、それぞれ減少しております。</p>																																																																		

## （収益認識関係）

## 1．顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は投資運用業及び投資助言・代理業の単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益の区分は概ね単一であることから、顧客との契約から生じる収益を分解した情報の記載は重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## 2．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針4．収益及び費用の計上基準」記載のとおりであります。

## 3．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## （セグメント情報）

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

## （セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言・代理業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## （関連情報）

## 1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益
SBI・UTIインドファンド	680,260

## （報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

## （報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

## （報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

## （セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言・代理業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連情報)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

内国籍投資信託からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

委託者報酬については、制度上、顧客(最終受益者)情報を知りえないため、記載を省略しております。運用受託報酬及び投資助言報酬、その他営業収益については、損益計算書の営業収益の10%を占める相手先がないことから、記載を省略しております。

(報告セグメントごとの減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

## (関連当事者情報)

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

## 1. 関連当事者との取引

## 財務諸表提出会社と関連当事者との取引

## (ア)財務諸表提出会社の親会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
親会社	SBIグローバルアセット マネジメント 株式会社	東京都港区	3,363	資産運用業、金融情報サービス 事業子会社の持株会社	(被所有) 間接 97.9%	役員の兼任 経営管理 人員出向・受入 資金の貸付 (注1, 2)	貸付金の回収	3,250,000	-	-
							貸付利息の受取	68,587	-	-
							資金貸付	4,500,000	関係会社 短期貸付金	4,500,000
							貸付利息	48,244	未収利息	1,010
							経営管理報酬	607,052	未払金	333,878

(注1) 経営管理報酬は、業務内容を勘案し、双方協議のうえ締結した経営管理契約に基づき決定しております。

(注2) 資金貸付は、市場金利を勘案した合理的な利率を定め、その返済条件を協議によって決定しております。

## (イ)財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
同一の親会社 を持つ会社	ウエルスアド バイザー株式 会社	東京都港区	30	金融情報 サービス 事業、 投資助言業		資金の貸付 運用への助言 人員出向・受入 データ購入等 (注1)	貸付金の回収	600,000	-	-
							貸付利息の受取	5,019	-	-
							貸付利息	96	-	-
	株式会社SBI 証券	東京都港区	54,323	証券業		販売委託(注 2)	販売委託支 払手数料	1,057,030	未払金	266,069

(注1) 資金貸付は、市場金利を勘案した合理的な利率を定め、その返済条件を協議によって決定しております。

(注2) 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

## 2. 親会社に関する注記

## 親会社情報

- SBIグローバルアセットマネジメント株式会社  
(東京証券取引所プライム市場に上場)
- SBIアセットマネジメント・グループ株式会社  
(非上場)
- SBIホールディングス株式会社

（東京証券取引所プライム市場に上場）

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

## 1. 関連当事者との取引

## 財務諸表提出会社と関連当事者との取引

## (ア)財務諸表提出会社の親会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有 割合(%))	関連当事者との 関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
親会社	SBIグローバルアセット マネジメント 株式会社	東京都港区	3,363	資産運用 業、金融情 報サービス 事業子会社 の持株会社	(被所有) 間接 97.9%	役員の兼任 経営管理 人員出向・受 入 資金の貸付 (注1, 2)	貸付利息の 受取	68,406	-	-
							資金貸付	200,000	関係会社 短期貸付 金	4,700,000
							貸付利息	67,395	未収利息	-
							経営管理報 酬	597,599	未払金	328,679

(注1) 経営管理報酬は、業務内容を勘案し、双方協議のうえで締結した経営管理契約に基づき決定しております。

(注2) 資金貸付は、市場金利を勘案した合理的な利率を定め、その返済条件を協議によって決定しております。

## (イ)財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有 割合(%))	関連当事者との 関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
同一の親会 社を持つ会 社	株式会社SBI 証券	東京都港区	54,323	証券業		販売委託 (注)	販売委託支 払手数料	1,461,607	未払金	316,838

(注) 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

## 2. 親会社に関する注記

## 親会社情報

SBIグローバルアセットマネジメント株式会社

(東京証券取引所プライム市場に上場)

SBIアセットマネジメント・グループ株式会社

(非上場)

SBIホールディングス株式会社

(東京証券取引所プライム市場に上場)

## (1株当たり情報)

	前事業年度 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	当事業年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日
1株当たり純資産額	4,936円99銭	5,674円15銭
1株当たり当期純利益	667円03銭	790円85銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	当事業年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日
当期純利益(千円)	939,405	1,113,782
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	939,405	1,113,782
期中平均株式数(株)	1,408,330	1,408,330

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 中間財務諸表

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	当中間会計期間 (2025年9月30日)
資産の部	
流動資産	
現金・預金	2,054,457
関係会社短期貸付金	4,700,000
前払費用	49,568
未収委託者報酬	1,604,231
未収運用受託報酬	13,028
その他	64,524
流動資産合計	8,485,810
固定資産	
有形固定資産	
建物	129,259
器具備品	15,715
有形固定資産合計	34,974
無形固定資産	
商標権	1,636
ソフトウェア	125,546
その他	67
無形固定資産合計	127,249
投資その他の資産	
投資有価証券	591,849
関係会社株式	22,031
繰延税金資産	86,406
その他	43,983
投資その他の資産合計	744,271
固定資産合計	906,495
繰延資産	
株式交付費	123
繰延資産合計	123
資産合計	9,392,430

(単位：千円)

	当中間会計期間 (2025年9月30日)
負債の部	
流動負債	
預り金	4,181
未払金	1,960,209
未払手数料	986,099
その他未払金	974,110
未払法人税等	287,315
未払消費税等	257,254
流動負債合計	2,308,961
負債合計	2,308,961
純資産の部	

株主資本	
資本金	400,200
資本剰余金	
その他資本剰余金	3,847,137
資本剰余金合計	3,847,137
利益剰余金	
利益準備金	100,050
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	2,780,949
利益剰余金合計	2,880,999
自己株式	63
株主資本合計	7,128,274
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	44,804
評価・換算差額等合計	44,804
純資産合計	7,083,469
負債純資産合計	9,392,430

## (2) 中間損益計算書

(単位：千円)

当中間会計期間

(自 2025年4月1日

至 2025年9月30日)

営業収益	
委託者報酬	4,016,886
運用受託報酬	38,162
投資助言報酬	20
その他営業収益	23,327
営業収益計	4,078,396
営業費用	
支払手数料	1,877,108
広告宣伝費	2,361
委託調査費	150,550
委託計算費	429,487
営業雑経費	18,726
通信費	219
印刷費	9,339
協会費	9,052
諸会費	114
営業費用計	2,478,234
一般管理費	
給料	273,471
役員報酬	41,284
給料・手当	216,817
賞与	15,369
福利厚生費	43,686
旅費交通費	967
交際費	2
租税公課	28,109
不動産賃借料	19,491
退職給付費用	7,124
固定資産減価償却費	25,731

消耗品費	1,936
事務委託費	21,660
諸経費	315,209
一般管理費計	737,391
営業利益	862,770
営業外収益	
受取利息	42,418
投資有価証券売却益	124
為替差益	10
雑収入	1,111
営業外収益計	43,664
営業外費用	
株式交付費償却	123
営業外費用計	123
経常利益	906,311

(単位：千円)

当中間会計期間  
(自 2025年 4月 1日  
至 2025年 9月 30日)

税引前中間純利益	906,311
法人税、住民税及び事業税	267,599
法人税等調整額	9,239
法人税等合計	276,839
中間純利益	629,472

## (3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2025年 4月 1日 至 2025年 9月 30日）

(単位：千円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金				
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	400,200	3,847,137	3,847,137	100,050	3,700,640	3,800,690	63	8,047,964	
当中間期変動額									
剰余金の配当					1,549,163	1,549,163		1,549,163	
中間純利益					629,472	629,472		629,472	
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計					919,690	919,690		919,690	
当中間期末残高	400,200	3,847,137	3,847,137	100,050	2,780,949	2,880,999	63	7,128,274	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合 計	

当期首残高	56,889	56,889	7,991,074
当中間期変動額			
剰余金の配当			1,549,163
中間純利益			629,472
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	12,084	12,084	12,084
当中間期変動額合計	12,084	12,084	907,605
当中間期末残高	44,804	44,804	7,083,469

## 注記事項

### （重要な会計方針）

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### 有価証券

##### 関係会社株式

移動平均法による原価法

##### その他有価証券

##### 市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### 有形固定資産

主として定額法を採用しております。なお主な耐用年数は、建物が8 - 18年、器具備品が3 - 15年であります。

##### 無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### 3. 収益及び費用の計上基準

当社の事業である投資運用業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、以下のとおりであります。

##### 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき公募・私募の投資信託財産の運用指図を行うことが主な履行義務の内容であり、運用期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資信託約款に定められた信託報酬として、ファンド設定以降、日々の純資産残高に一定の報酬率を乗じて算出された額が、当該ファンドの運用期間にわたり収益として認識されます。

##### 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資家である対象顧客と投資一任契約を締結し、資産の運用を行うことが主な履行義務の内容であり、運用期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資一任契約ごとに定められた運用対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、運用を受託した期間にわたり収益として認識されます。

投資助言報酬 投資助言報酬は、対象顧客と投資助言（顧問）契約を締結し、当該顧客の資産運用に係る助言を行うことが主な履行義務の内容であり、助言期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資助言（顧問）契約ごとに定められた助言対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、助言期間にわたり収益として認識されます。

#### 4. その他中間財務諸表作成のための重要な事項

##### 繰延資産の処理方法

株式交付費 3年間で均等償却しております。

##### （会計方針の変更）

該当事項はありません。

##### （中間貸借対照表関係）

#### 1 有形固定資産の減価償却累計額

	当中間会計期間 (2025年9月30日)
建物	17,872千円
器具備品	8,680千円

#### 2 消費税及び地方消費税の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。

##### （中間損益計算書関係）

#### 減価償却実施額

	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
有形固定資産	2,636千円
無形固定資産	23,095千円

##### （中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

#### 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首株式数(株)	増加	減少	当中間会計期間末 株式数(株)
普通株式	1,408,348			1,408,348

#### 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首株式数(株)	増加	減少	当中間会計期間末 株式数(株)
普通株式	18			18

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

（決議）	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年6月17日定時株主総会	普通株式	1,549,163	1,100	2025年3月31日	2025年6月23日	利益剰余金

## （金融商品関係）

## 1. 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません（注）1.参照）。また、「現金・預金」「関係会社短期貸付金」「未収委託者報酬」「未収運用受託報酬」「未払金」は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

当中間会計期間（2025年9月30日）

	中間貸借対照表計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
投資有価証券	591,849	591,849	
資産計	591,849	591,849	

（注）1. 市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	中間貸借対照表計上額（千円）
関係会社株式 子会社株式	22,031

（注）2. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

当中間会計期間（2025年9月30日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 投資信託		591,849		591,849
資産計		591,849		591,849

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資信託

市場における取引価格が存在せず、かつ、解約等に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないことから、基準価額を時価としており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 子会社株式

市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額

区分	中間貸借対照表計上額 (千円)
子会社株式	22,031

2. その他有価証券

当中間会計期間（2025年9月30日）

区分	中間貸借対照表 計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）	
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	16,727	14,077	2,650
	小計	16,727	14,077	2,650
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	575,122	643,200	68,077
	小計	575,122	643,200	68,077
合計	591,849	657,277	65,427	

(注)表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

## （収益認識関係）

## 1．顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は投資運用業及び投資助言・代理業の単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益の区分は概ね単一であることから、顧客との契約から生じる収益を分解した情報の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## 2．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針3．収益及び費用の計上基準」記載のとおりであります。

## 3．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## （セグメント情報等）

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

## （セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言・代理業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## （関連情報）

## 1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1) 営業収益

内国籍投資信託からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3．主要な顧客ごとの情報

委託者報酬については、制度上、顧客（最終受益者）情報を知りえないため、記載を省略しております。運用受託報酬及び投資助言報酬、その他営業収益については、中間損益計算書の営業収益の10%を占める相手先がないことから、記載を省略しております。

## （報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

## （報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

## （報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

## （1株当たり情報）

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	当中間会計期間 (2025年9月30日)
1株当たり純資産額	5,029円69銭
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(千円)	7,083,469
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	
普通株式に係る中間会計期間末の純資産額(千円)	7,083,469
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間会計期間末の普通株式の数(株)	1,408,330

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり中間純利益	446円96銭
(算定上の基礎)	
中間純利益(千円)	629,472
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る中間純利益(千円)	629,472
普通株式の期中平均株式数(株)	1,408,330

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引またはデリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

#### 5【その他】

##### (1) 定款の変更、その他の重要事項

###### (イ) 定款の変更

2022年6月22日付で、発行可能株式総数を変更する定款の変更を行いました。

###### (ロ) その他の重要事項

2022年8月1日に、SBIアセットマネジメント株式会社、SBI bonds・インベストメント・マネジメント株式会社、及びSBI地方創生アセットマネジメント株式会社の3社は合併をいたしました。その際、SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、合併後は同商号を継承いたしました。

また、合併後のSBIアセットマネジメント株式会社は、2023年4月1日に、新生インベストメント・マネジメント株式会社と合併をいたしました。その際、SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、合併後は同商号を継承いたしました。

##### (2) 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実

該当事項はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

	名 称	資本金の額 (2025年3月末 日現在)	事業の内容
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。
再信託 受託会社	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	10,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。
販売会社	株式会社SBI証券	54,323百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
	立花証券株式会社	6,695百万円	
	楽天証券株式会社	19,495百万円	
	三菱UFJ eスマート証券株式会社	7,196百万円	
	松井証券株式会社 <sup>1</sup>	11,945百万円	
	スルガ銀行株式会社	30,043百万円	
投資顧問 会社	ウエルスアドバイザー株式会社	30百万円	「金融商品取引法」に定める金融商品取引業として投資助言・代理業を営んでいます。

1 松井証券株式会社は「My-ラップ積極型」の募集・販売等の取扱いを行っております。

## 2【関係業務の概要】

## (1) 受託会社

本ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

## (2) 再信託受託会社

本ファンドの受託会社と再信託契約を締結し、信託事務の一部を行います。

## (3) 販売会社

本ファンドの販売会社として募集・販売の取扱い、一部解約事務および収益分配金・解約金・償還金の支払い等を行います。

## (4) 投資顧問会社

本ファンドの投資顧問会社として委託会社に対して運用に関する情報提供及び投資助言等を行います。

## 3【資本関係】

(持株比率5.0%以上を記載します。)

## (1) 受託会社

該当事項はありません。

## (2) 再信託受託会社

該当事項はありません。

## (3) 販売会社

該当事項はありません。

## (4) 投資顧問会社

該当事項はありません。

### 第3【その他】

(1) 金融商品取引法第15条第2項本文に規定するあらかじめまたは同時に交付しなければならない目論見書（以下「交付目論見書」といいます。）の名称を「投資信託説明書（交付目論見書）」、また、金融商品取引法第15条第3項本文に規定する交付の請求があった時に直ちに交付しなければならない目論見書の名称を「投資信託説明書（請求目論見書）」と記載することがあります。

(2) 目論見書の表紙、表紙裏または裏表紙に、以下を記載することがあります。

委託会社の金融商品取引業者登録番号及び設立年月日

ファンドの基本的性格など

委託会社及びファンドのロゴ・マークや図案など

委託会社のホームページや携帯電話サイトのご案内など

目論見書の使用開始日

(3) 目論見書の表紙または表紙裏に、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。

投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。

投資信託は、元金及び利回りが保証されているものではない旨の記載。

投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入されたお客様が負う旨の記載。

「金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である。」旨の記載。

「ご購入に際しては、目論見書の内容を十分にお読みください。」という趣旨の記載。

請求目論見書の入手方法（ホームページで閲覧、ダウンロードできるなど）についての記載。

請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨及び当該請求を行なった場合にはその旨の記録をしておくべきである旨の記載。

「信託約款が請求目論見書に掲載されている。」旨の記載。

商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨の記載。

投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨の記載。

有価証券届出書の効力発生及びその確認方法に関する記載。

委託会社の情報として記載することが望ましい事項と判断する事項がある場合は、当該事項の記載。

(4) 交付目論見書の投資リスクに、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。

ファンドの取引に関して、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用がない旨の記載。

投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。

- (5) 有価証券届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、当該内容を説明した図表などを付加して目論見書の当該内容に関連する箇所に記載することがあります。
- (6) 目論見書に信託約款を掲載し、有価証券届出書本文「第二部 ファンド情報」中「第1 ファンドの状況」「2 投資方針」の詳細な内容につきましては、当該信託約款を参照する旨を記載することで、目論見書の内容の記載とすることがあります。
- (7) 投信評価機関、投信評価会社などによる評価を取得・使用する場合があります。
- (8) 目論見書は電子媒体などとして使用されるほか、インターネットなどに掲載されることがあります。

# 独立監査人の監査報告書

2025年5月23日

SBIアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

田 篤 照 夫

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士

郷 右 近 隆 也

業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBIアセットマネジメント株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、SBIアセットマネジメント株式会社の2025年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

## 財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象に含まれておりません。

# 独立監査人の監査報告書

2026年3月6日

SBIアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御 中監査法人 ナ カ チ  
東京都中央区代表社員 公認会計士 高 村 俊 行  
業務執行社員代表社員 公認会計士 家 富 義 則  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているSBIグローバル・ラップファンド(安定型)の2024年12月17日から2025年12月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、SBIグローバル・ラップファンド(安定型)の2025年12月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書(訂正有価証券届出書を含む。)に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
  2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

# 独立監査人の監査報告書

2026年3月6日

SBIアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御 中監査法人 ナ カ チ  
東京都中央区代表社員 公認会計士 高 村 俊 行  
業務執行社員代表社員 公認会計士 家 富 義 則  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているSBIグローバル・ラップファンド(積極型)の2024年12月17日から2025年12月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、SBIグローバル・ラップファンド(積極型)の2025年12月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書(訂正有価証券届出書を含む。)に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
  2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

# 独立監査人の中間監査報告書

2025年11月25日

SBIアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

田 島 照 夫

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士

原 田 達

業務執行社員

## 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBIアセットマネジメント株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第40期事業年度の中間会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、SBIアセットマネジメント株式会社の2025年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正

又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
  2. XBRLデータは中間監査の対象に含まれておりません。